

第2章 奈良県の子ども・子育てに関する現状

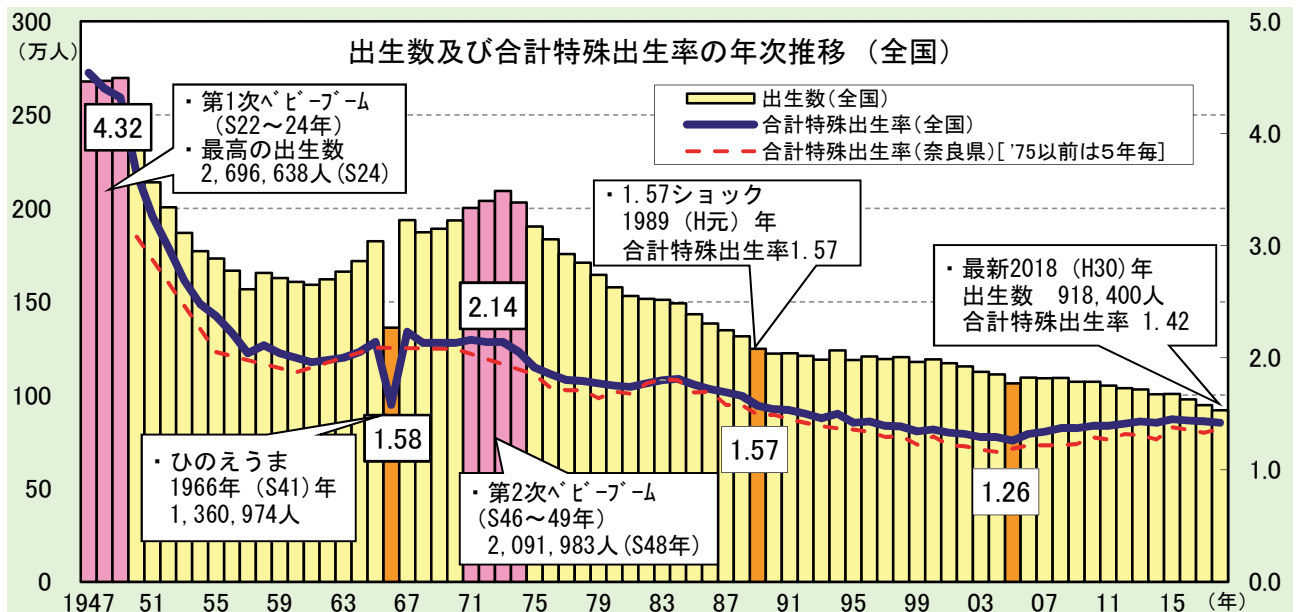
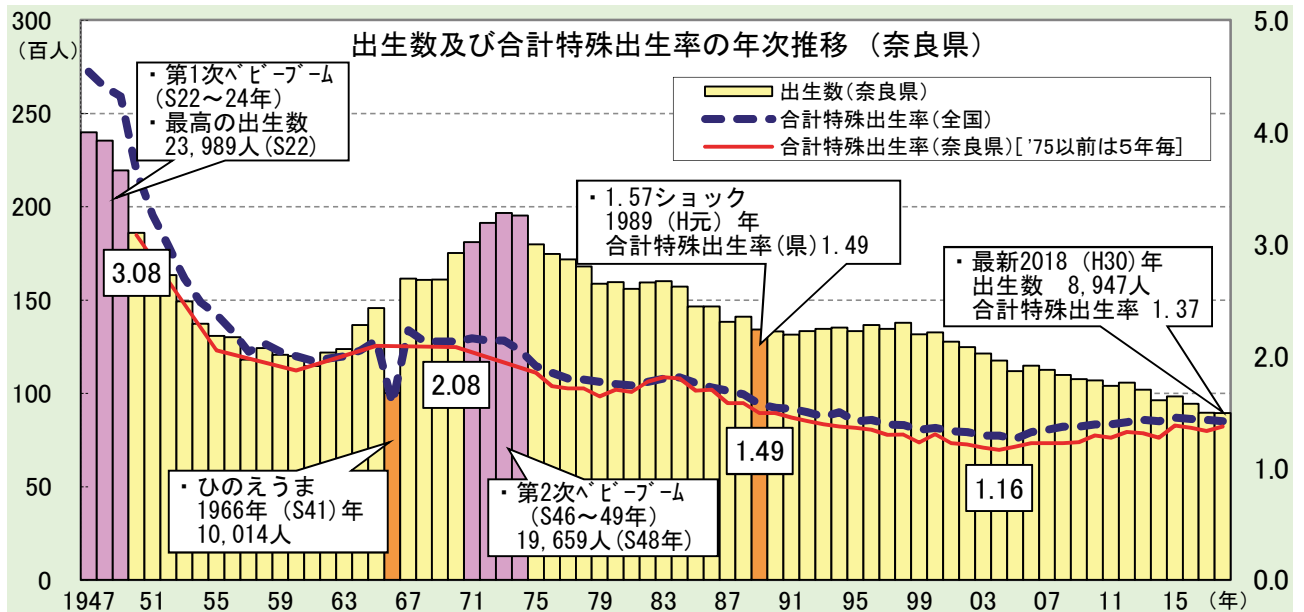
1 少子化の現状

(1) 出生の状況

■出生数と合計特殊出生率の推移

出生数及び合計特殊出生率は、奈良県、全国ともに1970年代の第2次ベビーブーム期以降長期的に低下傾向となっています。奈良県の出生数は、1970年代半ばには約2万人でしたが、1990年代には約1万3千人台で推移し、2018年の出生数は8,947人となりました。

奈良県の合計特殊出生率は、2004年には過去最低である1.16まで落ち込みましたが、近年は微増傾向が続き、2018年は1.37で全国38位となりました。



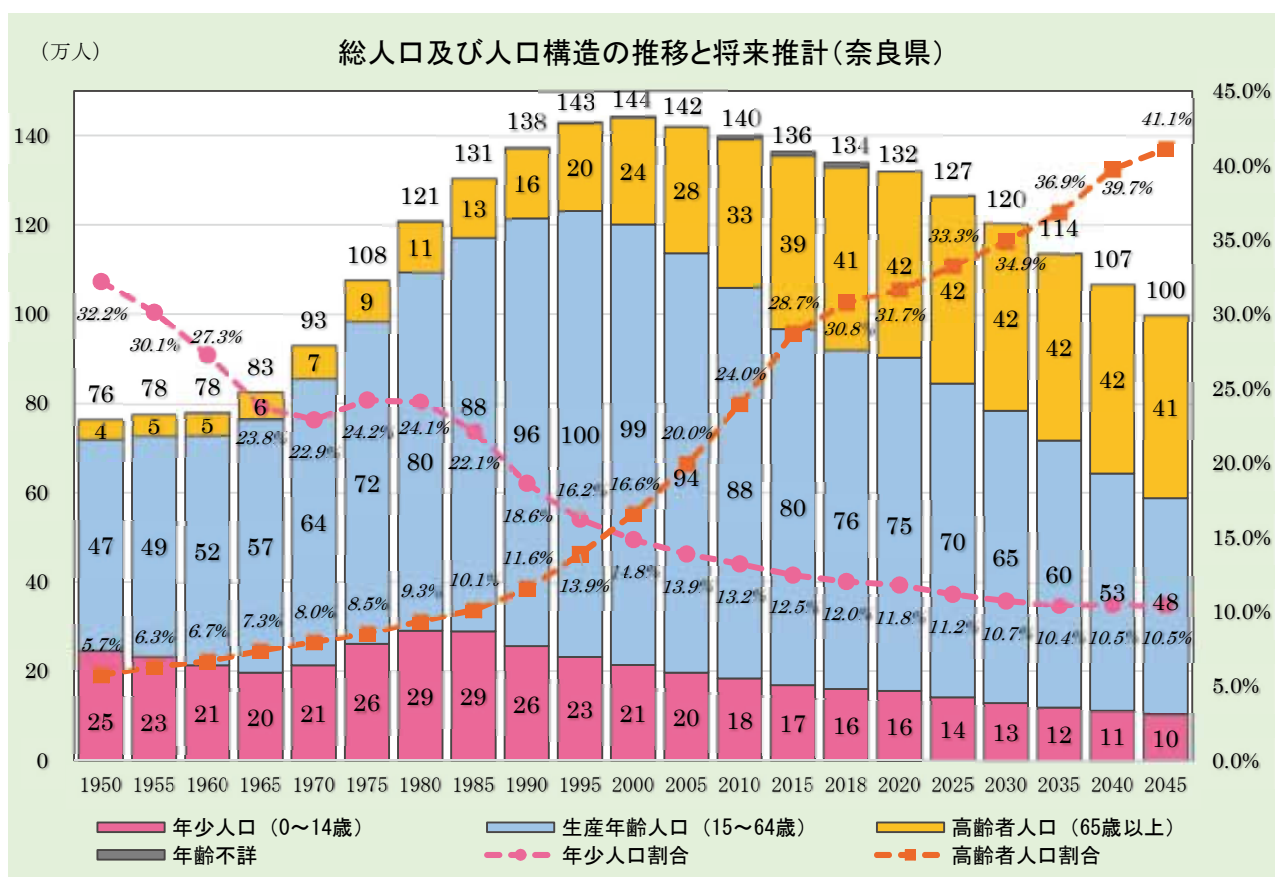
出典：厚生労働省「人口動態調査」

(2) 将来の人口予測

■総人口及び人口構造の推移と将来推計

奈良県の総人口は、2000年をピークに減少し、2018年に134万人となりました。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、奈良県の総人口は、2045年には100万人を下回ると予測されています。また、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、高齢者人口（65歳以上）の、総人口に占める割合は、それぞれ12.0%、57.2%、30.8%から、2045年には10.5%、48.4%、41.1%となり、人口の4割以上が高齢者人口となると予測されています。



出典：2015年までは総務省「国勢調査」、2018年は総務省「人口推計」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）※」
 ※「日本の将来推計人口（平成29年推計）」と比較して、推計年は短く2045年まで

(参考) 合計特殊出生率の地域差及び順位

○奈良県の合計特殊出生率の全国順位は、戦後約70年間40番台前半で推移しています。これは、東京圏や政令市周辺の地域で同様の結果になっています。

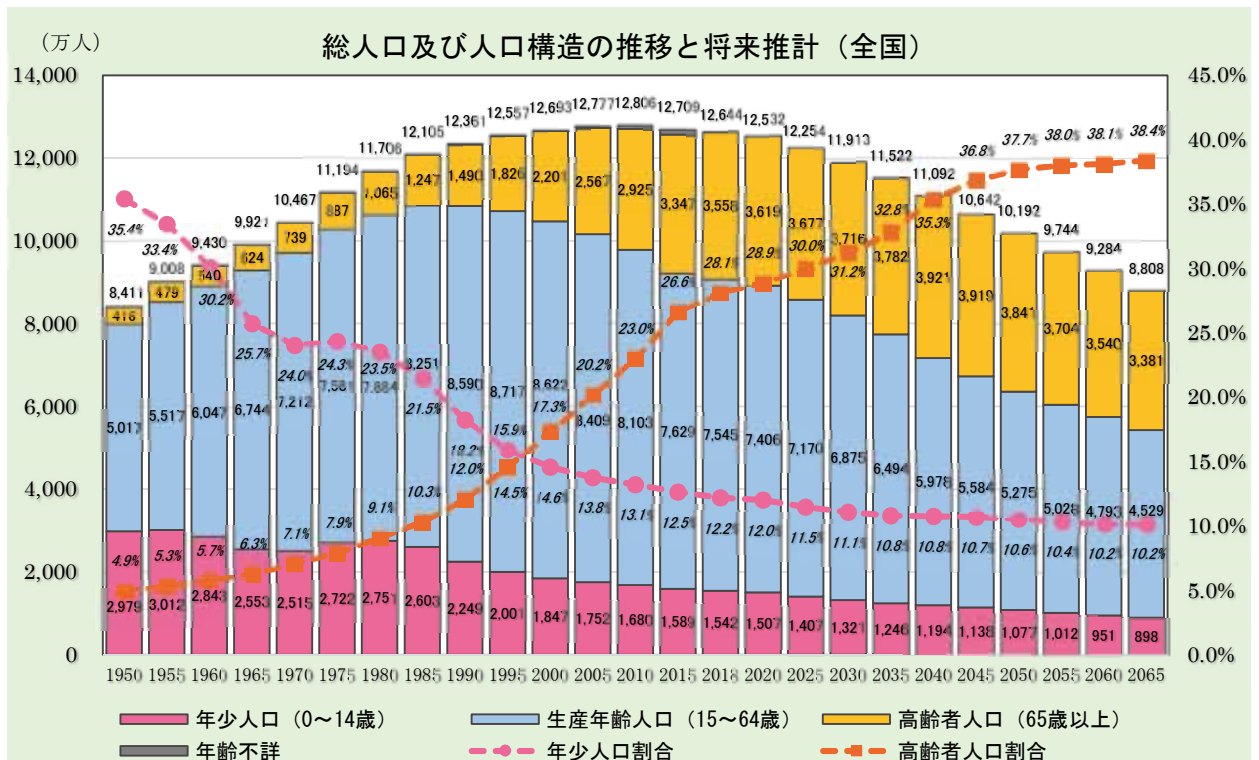
○また、戦後から現在まで、都道府県順位が大きく変動する事例は少なく、長期的に固定化される傾向があり、過去に例外的に改善したのは、高度成長期の昭和40年代のみとなっています。

西暦 元号	1950 S25	1955 S30	1960 S35	1965 S40	1970 S45	1975 S50	1980 S55	1985 S60	1990 H2	1995 H7	2000 H12	2005 H17	2010 H22	2015 H27	2018 H30
奈良県順位	42位	40位	42位	32位	25位	43位	41位	41位	41位	41位	41位	43位	44位	41位	38位
奈良県出生率	3.08	2.05	1.87	2.09	2.08	1.85	1.70	1.69	1.49	1.36	1.30	1.19	1.29	1.38	1.37
全国出生率	3.65	2.37	2.00	2.14	2.13	1.91	1.75	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.42

(参考) 我が国の人口推移と人口展望

○日本の総人口は、2018年で1億2,644万人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成29年推計）」によると、総人口は、2065年には8,808万人になると推計しています。

○国は、人口減少克服及び地方創生の実現に向け、2060年の人口将来展望を提示しており、それによると、合計特殊出生率が2030年に希望出生率である1.8程度、2040年に人口規模が維持できる水準である2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で安定的に推移するものと展望しています。



出典：2015年までは総務省「国勢調査」、2018年は総務省「人口推計」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

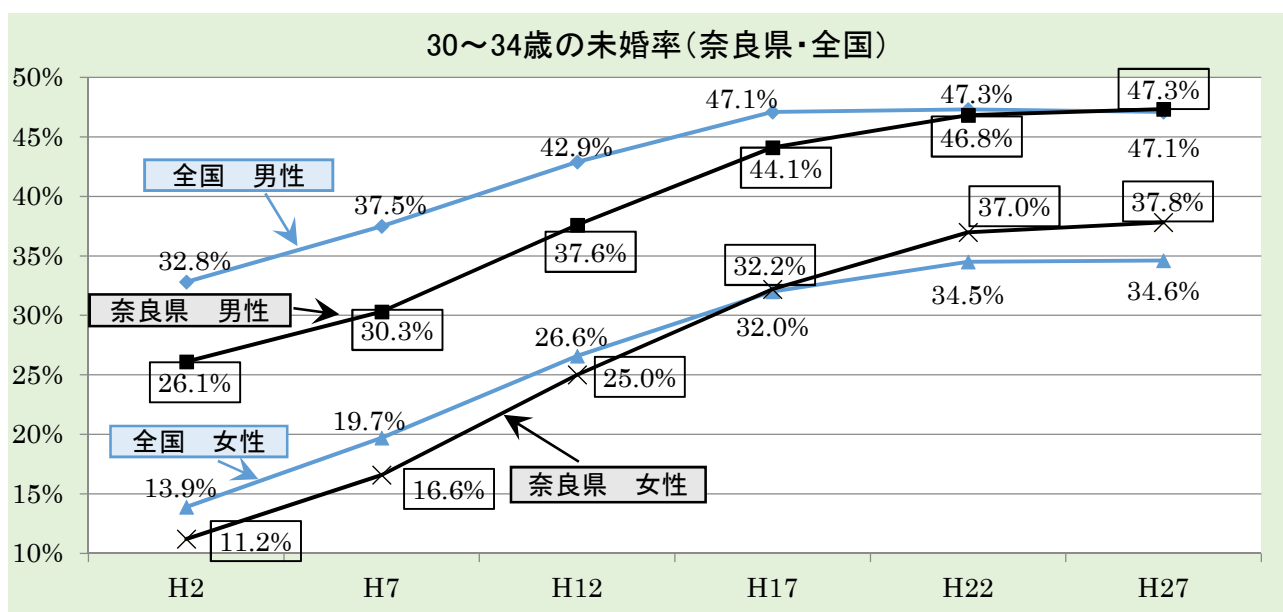
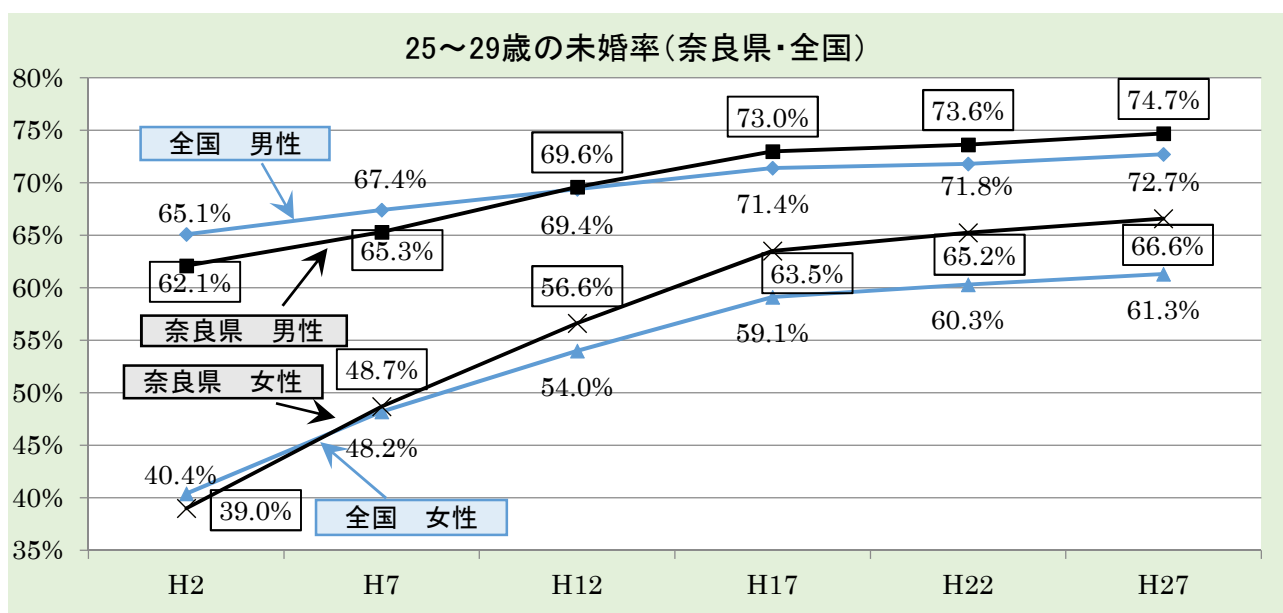
2 少子化の要因

少子化の直接的な要因としては、我が国では婚外出生が極めて少ないことから、未婚化・晩婚化が原因といわれています。また、夫婦の出生子ども数も減っている傾向にあります。合計特殊出生率の低下要因としては、未婚・非婚による有配偶率の低下の方がはるかに大きいといわれています。

(1) 未婚化～未婚率の推移等～

■ 5歳階級別未婚率の推移

奈良県の25～29歳の未婚率は、男女とも全国に比べ高く、平成27年の女性の未婚率は全国より5ポイント以上高くなっています。また、30～34歳では、男性はおよそ2人に1人、女性はおおよそ3人に1人が未婚となっています。



出典：総務省「国勢調査」

■未婚率の全国順位

平成27年の25～39歳の未婚率は男性は50.1%で全国13位、女性は41.4%で全国3位と女性の未婚率は全国上位の状況です。25～29歳、30～34歳、35～39歳の年代別でも、女性の未婚率は全国上位です。

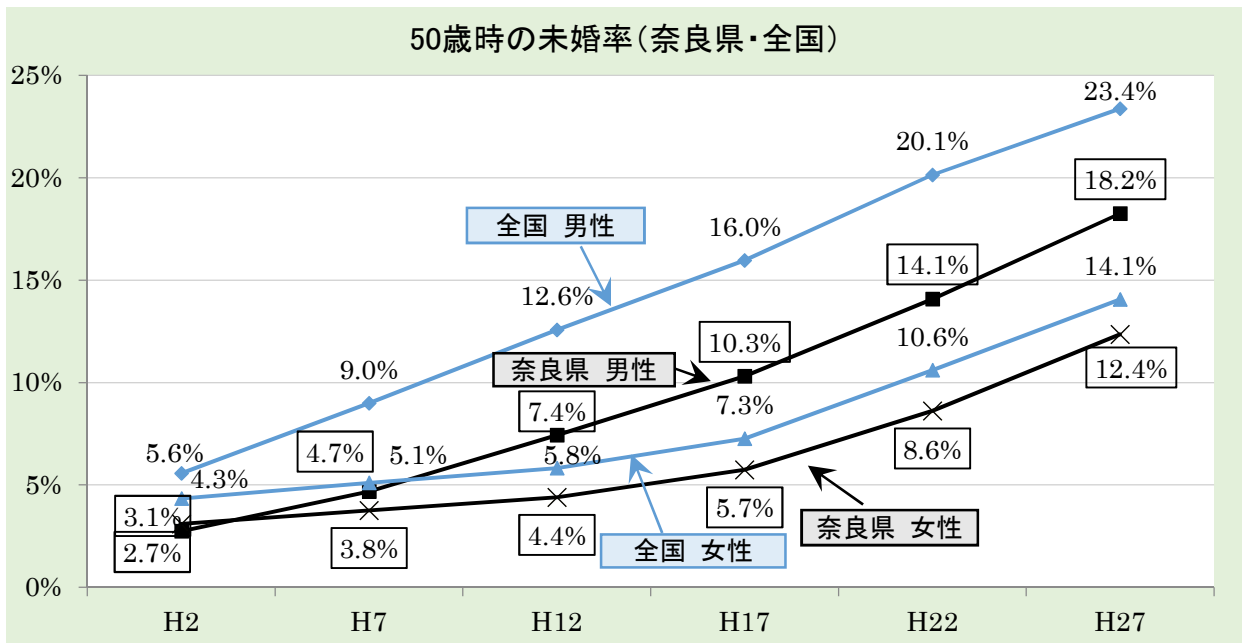
〔男性〕	都道府県	25～39歳 未婚率	順位	都道府県	25～29歳 未婚率	順位	都道府県	30～34歳 未婚率	順位	都道府県	35～39歳 未婚率	順位
	全国	49.9%	—	全国	72.7%	—	全国	47.1%	—	全国	35.0%	—
東京都	53.2%	1位	東京都	78.0%	1位	東京都	50.3%	1位	青森県	37.5%	1位	
神奈川県	52.6%	2位	神奈川県	76.8%	2位	神奈川県	50.0%	2位	埼玉県	37.3%	2位	
奈良県	50.1%	13位	奈良県	74.7%	6位	奈良県	47.3%	17位	奈良県	33.6%	28位	
鹿児島県	42.9%	46位	鹿児島県	64.8%	46位	鹿児島県	39.9%	46位	鹿児島県	29.6%	46位	
宮崎県	42.5%	47位	宮崎県	64.6%	47位	宮崎県	39.6%	47位	宮崎県	29.6%	46位	

〔女性〕	都道府県	25～39歳 未婚率	順位	都道府県	25～29歳 未婚率	順位	都道府県	30～34歳 未婚率	順位	都道府県	35～39歳 未婚率	順位
	全国	38.2%	—	全国	61.3%	—	全国	34.6%	—	全国	23.9%	—
東京都	43.6%	1位	東京都	68.3%	1位	東京都	39.5%	1位	東京都	27.9%	1位	
京都府	42.8%	2位	京都府	66.9%	2位	京都府	39.2%	2位	京都府	27.3%	2位	
奈良県	41.4%	3位	奈良県	66.6%	3位	奈良県	37.8%	3位	奈良県	25.1%	7位	
宮崎県	33.7%	46位	宮崎県	54.8%	46位	愛知県	29.9%	46位	滋賀県	19.5%	46位	
島根県	33.6%	47位	福島県	54.6%	47位	滋賀県	29.6%	47位	福井県	19.3%	47位	

出典：総務省「平成27年国勢調査」

(参考) 50歳時の未婚率

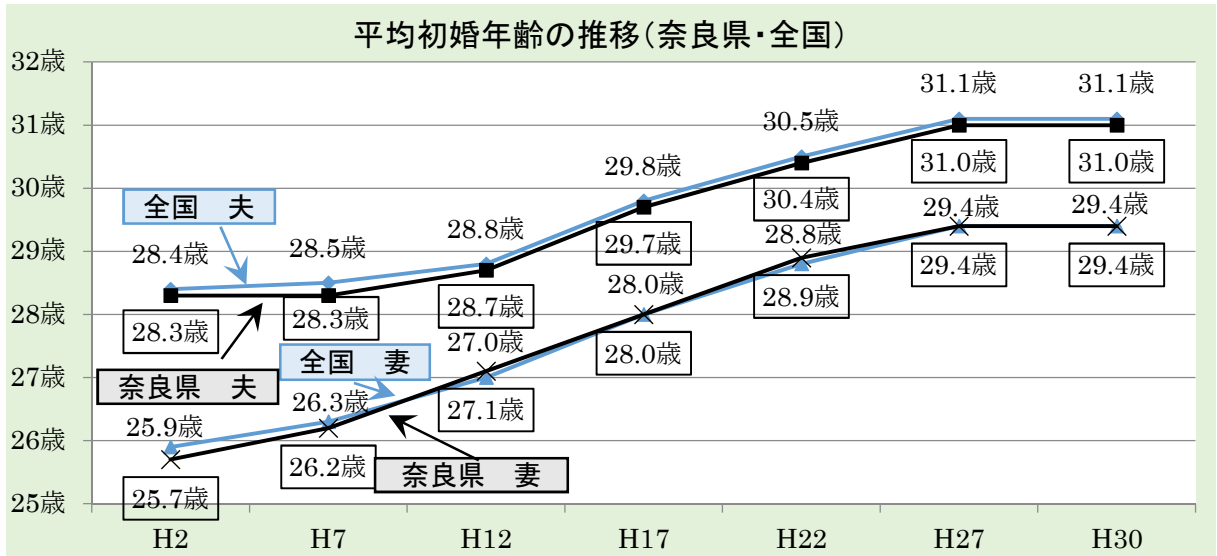
○奈良県は全国よりも若者の未婚率が高い状況ですが、50歳時未婚率については、全国よりも低く、女性は12.4%で全国30位ですが、男性は18.2%で全国一低い(結婚している)状況です。



出典：人口統計資料集(国立社会保障・人口問題研究所)、国勢調査(総務省)

(2) 晩婚化～平均初婚年齢の推移～

平均初婚年齢は長期的にみると、奈良県、全国、夫、妻ともに同水準で上昇を続け、晩婚化が進行しています。平成30年では奈良県は男性が31歳、女性が29.4歳で全国と同水準です。

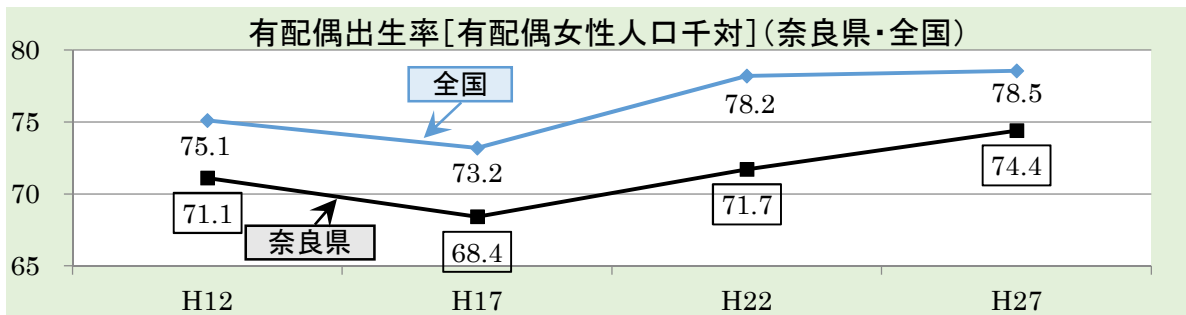


出典：厚生労働省「人口動態調査」

(3) 夫婦の子ども数

■有配偶出生率の推移

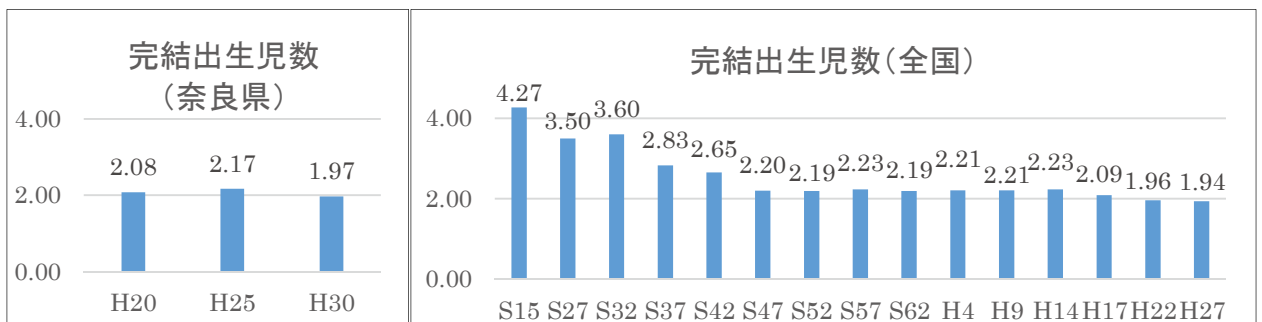
有配偶出生率(出生数を15～49歳の有配偶女性人口で除したもの)については、奈良県、全国ともに平成17年からは増加しており、平成27年の奈良県は74.4で全国より低い状況です。



出典：人口動態統計特殊報告(厚生労働省)・(H27のみ地域少子化・働き方指標[まち・ひと・しごと創生本部])

■夫婦の平均出生児数(完結出生児数)

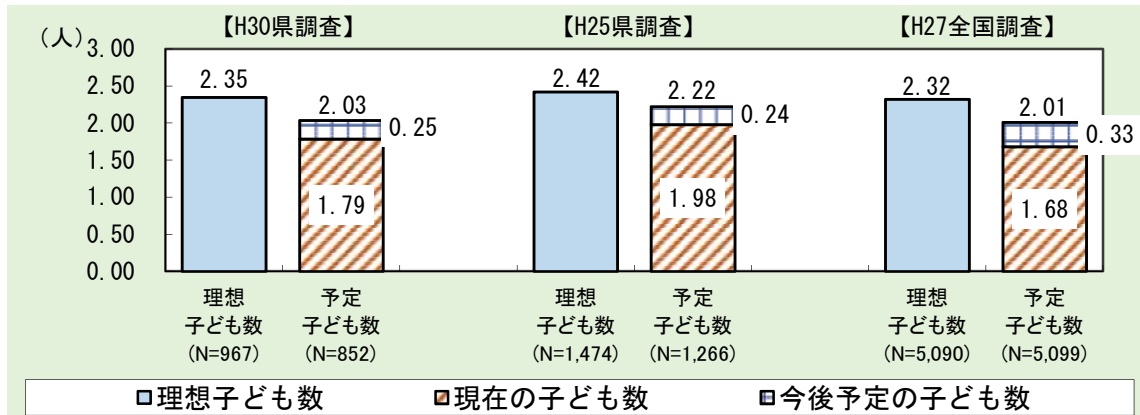
奈良県の結婚持続期間15～19年の夫婦(初婚同士)の平均出生児数(完結出生児数)は、1.97人(H30)で、全国平均の1.94人(H27)と同程度となっています。



出典：出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)及び平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

■理想及び出産予定の子ども数

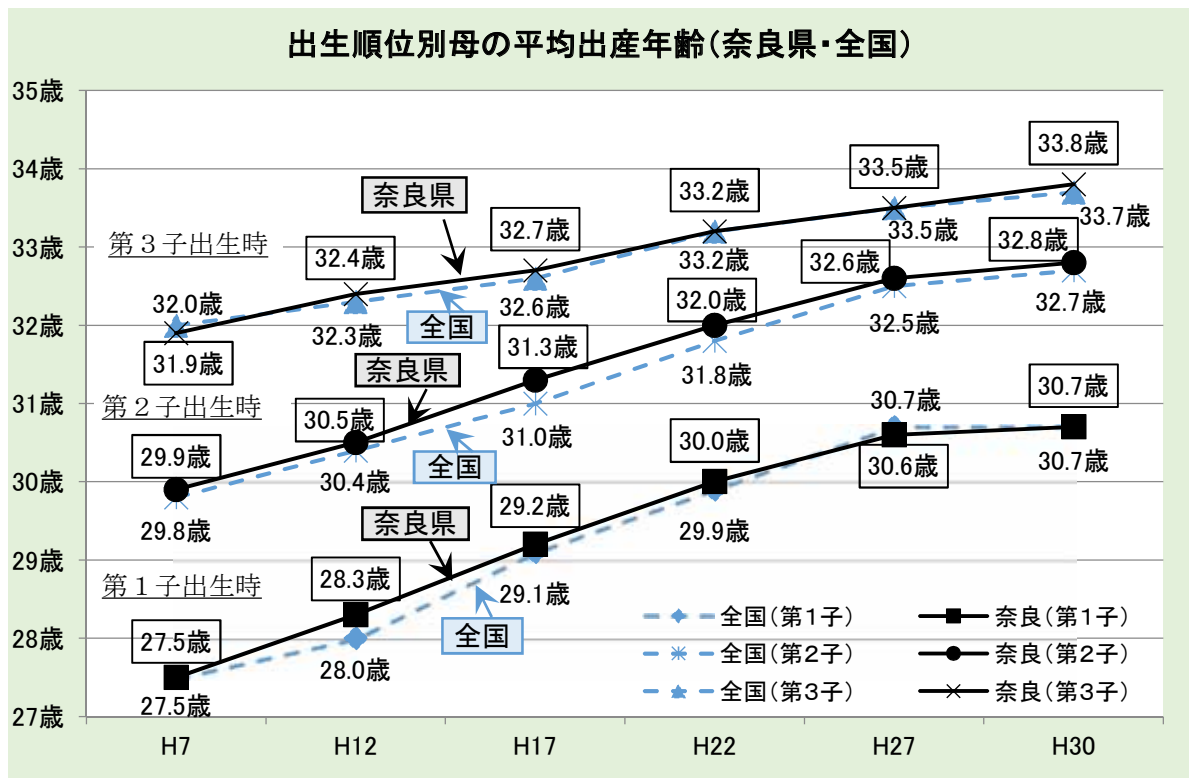
奈良県の夫婦が考える理想の子ども数（平均）は2.35人ですが、予定している子ども数（平均）は2.03人で、その差は0.32人となっています。前回調査の差（0.20人）と比較すると、やや差が広がっていますが、全国調査の差（0.31人）とは同水準です。



出典：出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）及び平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

■晩産化～母の平均出産年齢の推移～

出生時の母親の平均年齢を出生順位別にみると、奈良県、全国ともに同水準で上昇しており、晩産化が進んでいます。平成30年では、奈良県の第1子出生時年齢は30.7歳で全国と同水準です。



出典：厚生労働省「人口動態調査」

3 子ども・子育てを取り巻く現状

子ども・子育てを取り巻く現状を、エビデンスに基づいた様々な奈良県に係る調査結果をはじめ、奈良県だけでなく社会の課題となっていることも含め、子育て家庭、子ども、若者に分け、とりまとめました。

(1) 子育て家庭を取り巻く現状

①子育て家庭の状況

<家庭状況の特徴（全国比較）>

本県の世帯や家庭状況の特徴的なこととしては、核家族世帯率が全国1位、そして専業主婦率も全国1位ということがあげられます。また、家事関連時間は女性が全国1位、男性は全国3位で、合計すると全国1位です。

◇核家族世帯率・家事関連時間・専業主婦率

【核家族世帯率】

都道府県	核家族世帯率	順位
全国	55.8%	—
奈良県	63.9%	1位
埼玉県	61.3%	2位
~~~~~		
山形県	49.8%	46位
東京都	47.8%	47位

(出典：総務省「平成27年国勢調査」)

##### 【専業主婦率】

都道府県	専業主婦率	順位
全国	33.0%	—
奈良県	40.5%	1位
兵庫県	36.9%	2位
~~~~~		
福井県	25.4%	46位
高知県	25.4%	46位

(出典：総務省「平成27年国勢調査」)

【家事関連時間】

<男性>			<女性>		
都道府県	時間	順位	都道府県	時間	順位
全国	45分	—	全国	225分	—
広島県	54分	1位	奈良県	237分	1位
宮崎県	51分	2位	三重県	230分	2位
宮城県	50分	3位	埼玉県	229分	3位
奈良県	50分	3位	千葉県	228分	4位
~~~~~			~~~~~		
佐賀県	38分	46位	青森県	196分	45位
熊本県	38分	46位	山形県	196分	45位
			福島県	189分	47位

(家事関連時間とは「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計)

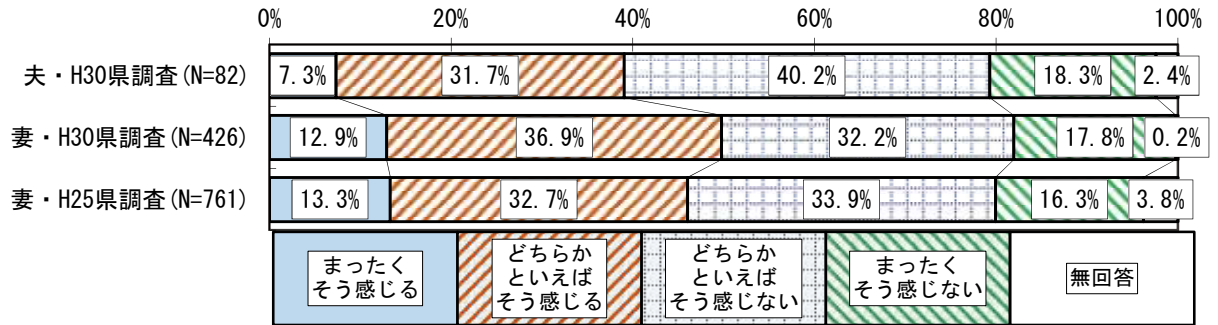
(出典：総務省「平成28年社会生活基本調査」)



## <子育ての不安感・負担感>

### ■子育ての心理的・精神的な不安感・負担感

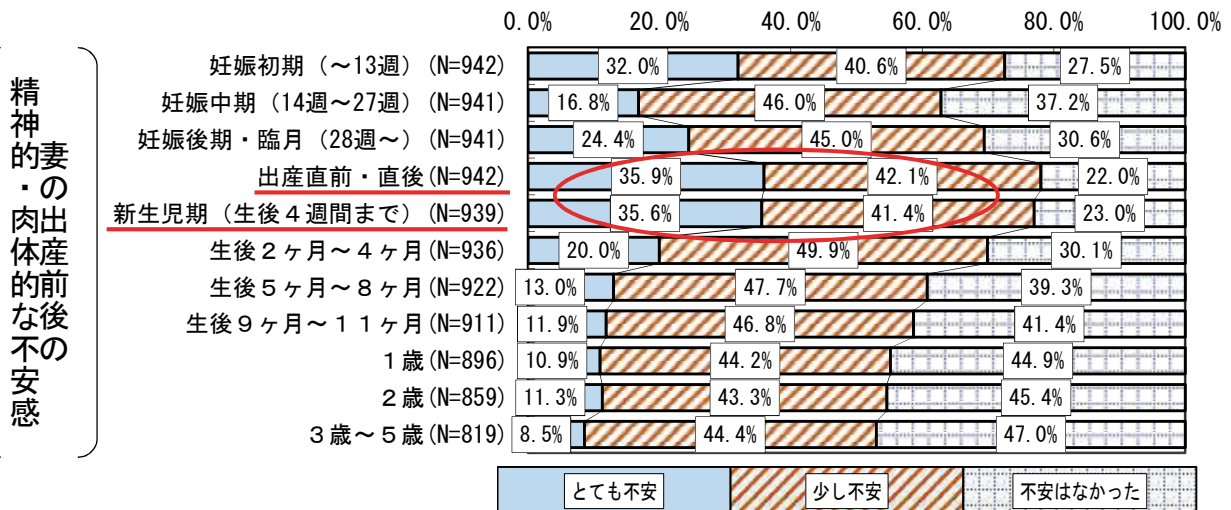
6歳未満の子どもがいる妻の子育ての心理的・精神的な不安感・負担感を「まったくそう感じる」割合（12.9%）は、前回（13.3%）に比べ微減しましたが、「どちらかといえばそう感じる」と合計すると（49.8%）やや増加し、約半数の母親が心理的・精神的な不安感・負担感を感じています。



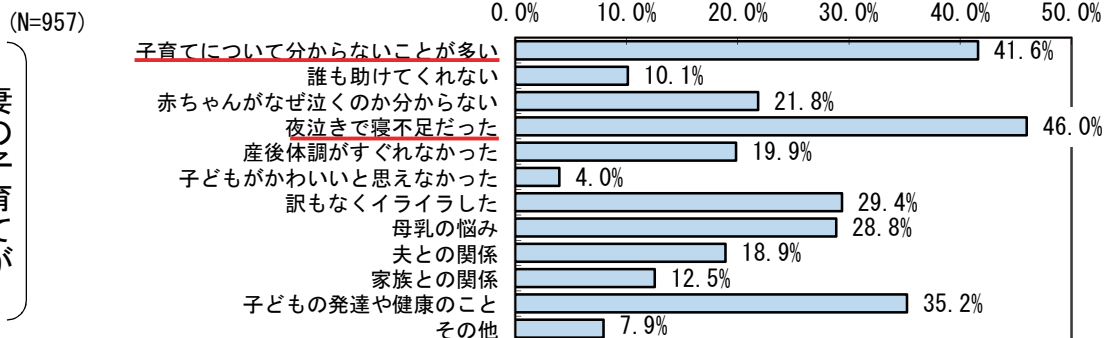
出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

### ■妻が最も子育てに不安を感じた時期とその要因

妻が最も子育てに不安を感じた時期は、「出産直前・直後」や「新生児期」の子育ての早期でした。また、子育てがしんどいと感じた要因は、「夜泣き（授乳等）で寝不足だったこと」が46%と多く、次いで、「子育てについてわからないことが多い」が41.6%です。



精神的妻の肉出体的産前後の不安感



妻の子育てが感じられた要因

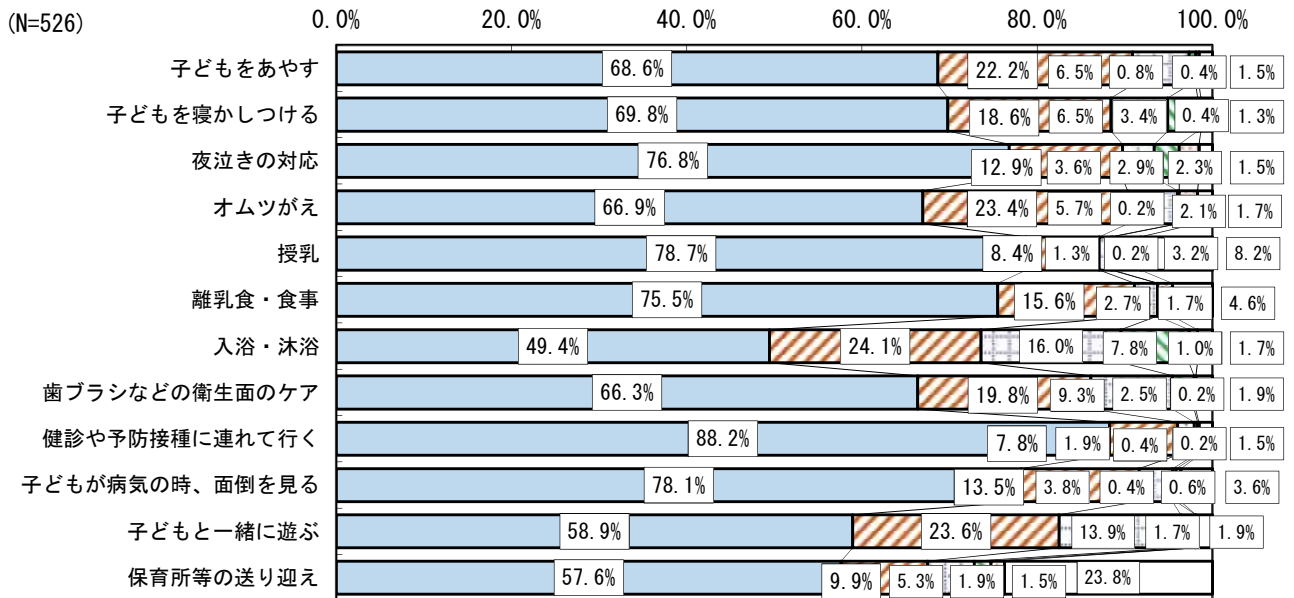
出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

### <夫婦の子育ての分担状況>

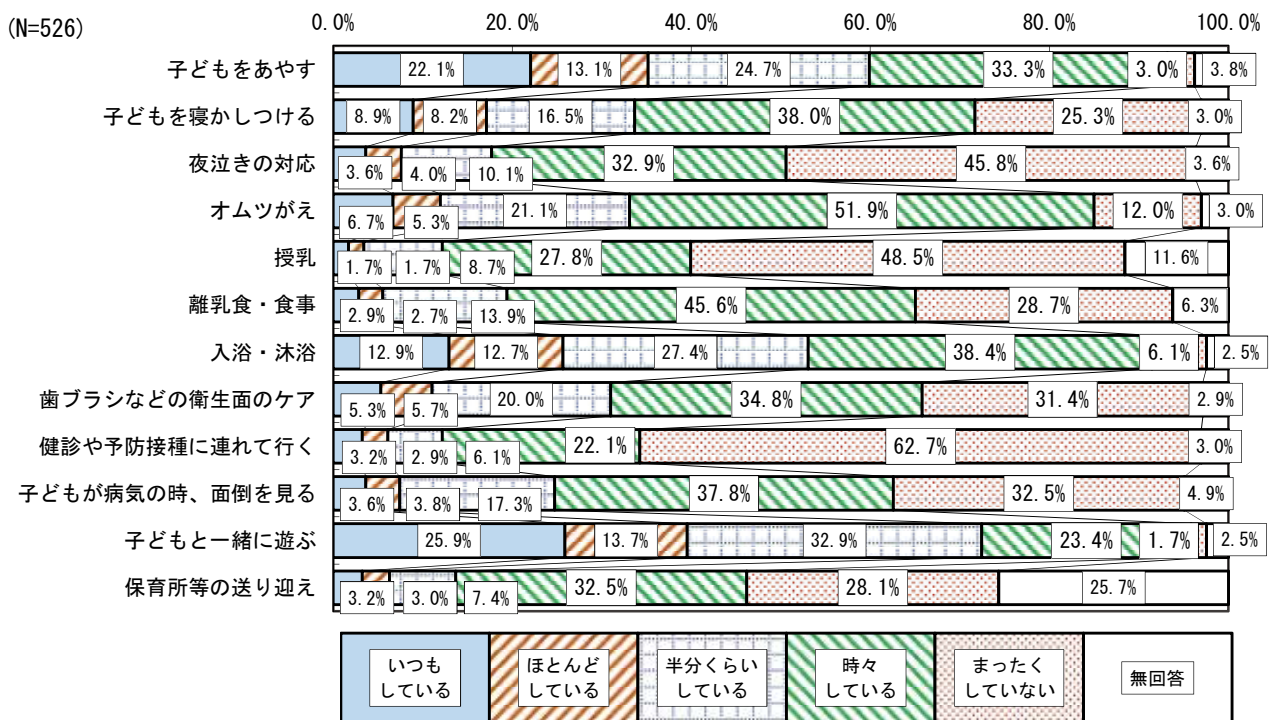
育児の夫婦の分担状況は、「子どもをあやす」や「離乳食・食事」等12項目すべての項目で約8～9割は妻に負担が偏っています。特に妻が一番しんどいと感じる「夜泣きの対応」は、夫の5割近く(45.8%)が「まったくしていない」状況です。

子育てに関わっていない夫の理由は、8割近くが「仕事が忙しいから」となっており(78.9%)、夫婦の子育ての一体感は、夫(46.3%)より妻(34.3%)の方が感じていないという結果です。

#### ◇育児の分担状況(妻)

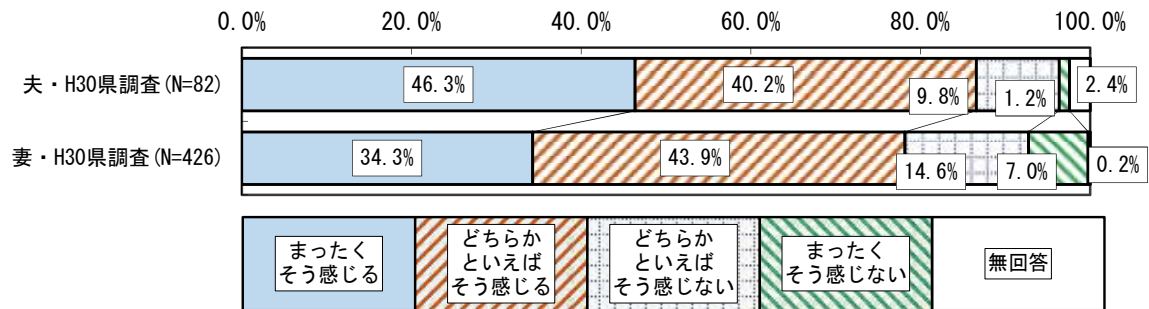


#### ◇育児の分担状況(夫)



出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

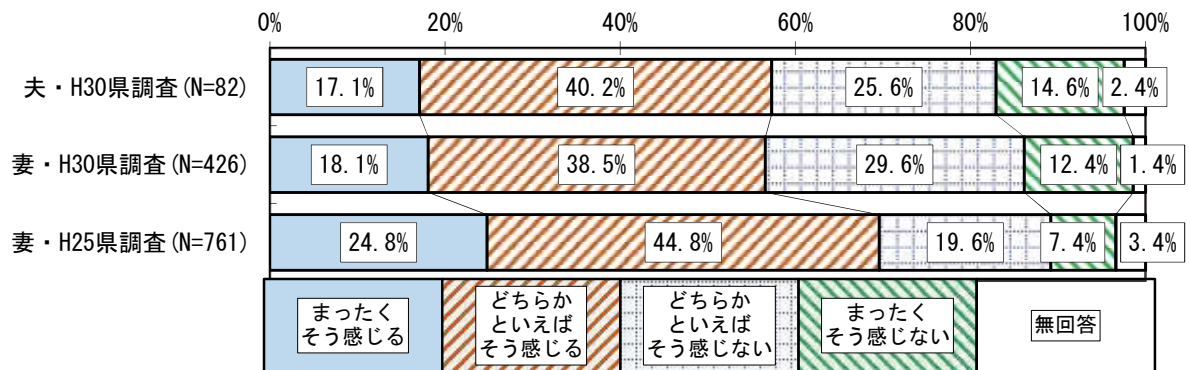
### ◇夫婦の子育ての一体感



出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

### ■子育ての金銭的・経済的な不安感・負担感

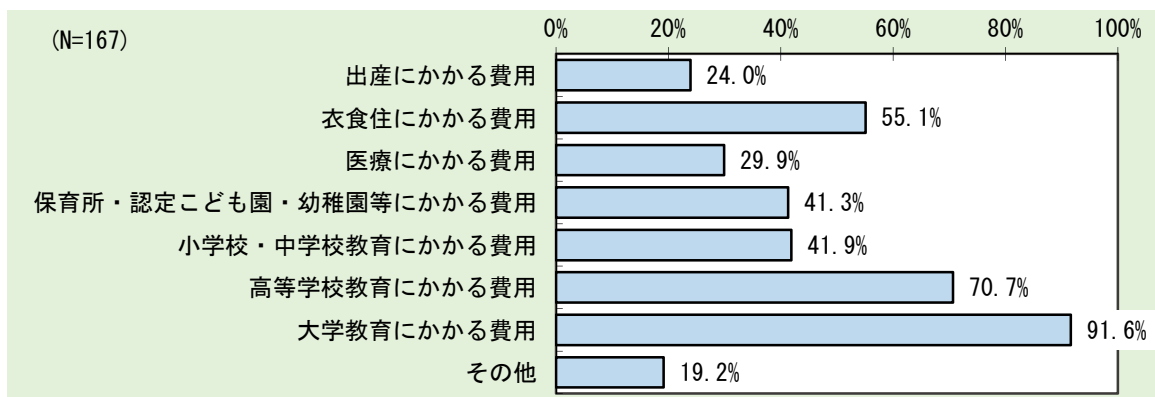
6歳未満の子どもがいる妻の子育ての金銭的・経済的な不安感・負担感は「まったくそう感じる」割合（18.1%）と「どちらかといえばそう感じる」割合（38.5%）は、どちらも前回に比べ減少しています。



出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

### ■理想の子ども数を持たない理由～子育てや教育に係るお金～

奈良県の夫婦が考える理想の子ども数（平均2.35人）と予定している子ども数（平均2.03人）には差がありますが、その理由の1位が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（50.6%）です。さらに、その要因の1位は「大学教育費用」、次いで「高等学校教育」となっています。



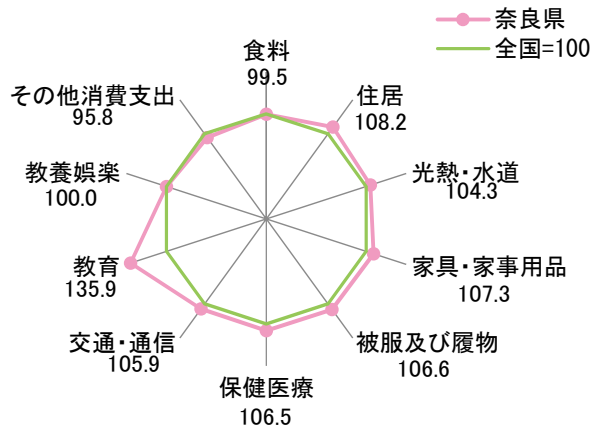
出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

**(参考) 進学状況 (全国比較)**

○本県の大学等進学率は高く、男性が全国7位、女性が全国4位の状況です。(令和元年度学校基本調査)

また、費目別消費支出をみると、10費目中9費目は全国と同水準ですが、教育費は突出して高いのが特徴です。

**【全国を100とした奈良県の費目別消費支出】 (二人以上の世帯)**

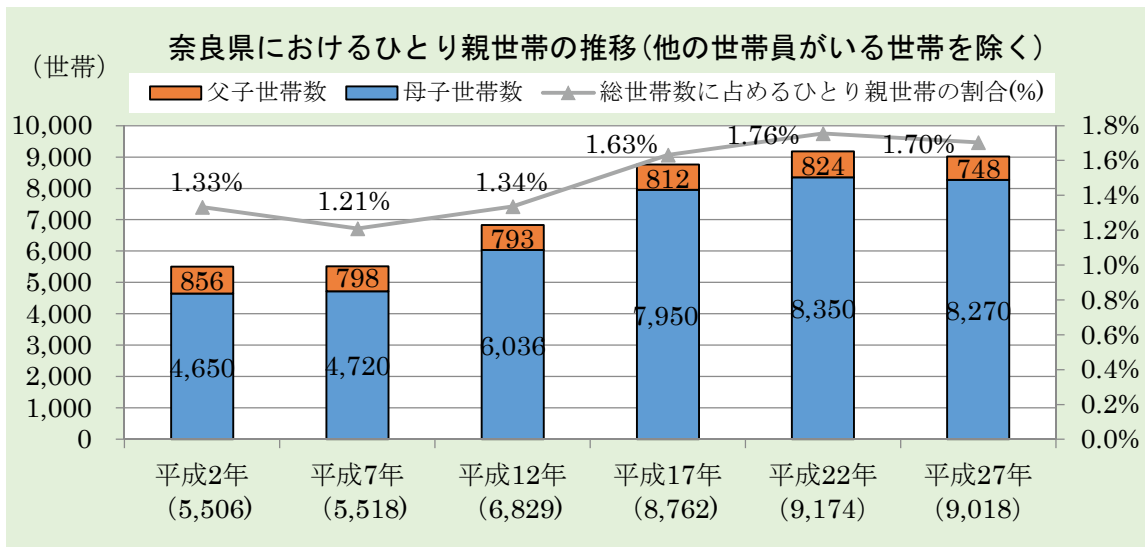


出典：奈良県のすがた 2019

**②ひとり親家庭の状況**

**■ひとり親世帯数の推移**

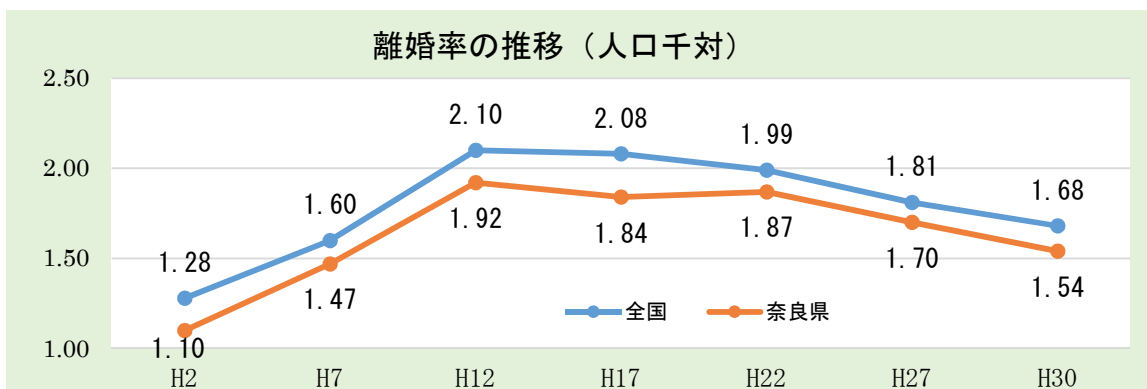
奈良県のひとり親世帯数や総世帯数に占める割合は増加傾向にありましたが、近年は横ばい傾向となっています。



出典：総務省「国勢調査」

## ■離婚率の推移

離婚率は全国・奈良県とも増加傾向にありましたが、近年は減少しています。



出典：厚生労働省「人口動態調査」

## ■ひとり親家庭の現状

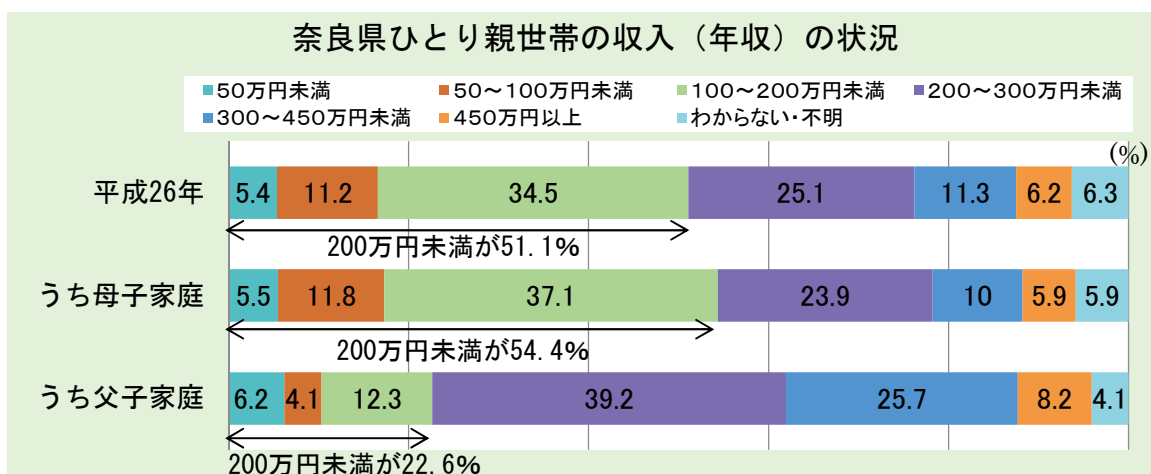
奈良県のひとり親になった理由の1位は離婚であり、子どもについての悩みは学習・進学が最も多くなっています。

調査項目	世帯	奈良県の現状	
ひとり親になった理由	母子	1位:離婚(89.9%)	2位:未婚の母(7.1%)
	父子	1位:離婚(80.4%)	2位:死別(17.5%)
子どもについての悩み	母子	1位:学習・進学(61.3%)	2位:しつけ(26.1%)
	父子	1位:学習・進学(56.4%)	2位:しつけ(34.0%)
悩みの相談相手	母子	適切な相談相手がない(5.6%)	だれにも相談しない(4.7%)
	父子	適切な相談相手がない(10.6%)	だれにも相談しない(14.9%)

出典：H26年度奈良県ひとり親家庭等実態調査

## ■ひとり親世帯の収入（年収）の状況

ひとり親世帯の父及び母の約9割が就労しているものの、年収が200万円未満の世帯が51.1%を占めており、特に母子世帯にあつては54.4%となっています。



出典：H26年度奈良県ひとり親家庭等実態調査



### ③子育て家庭の就労状況

#### <女性の就労状況>

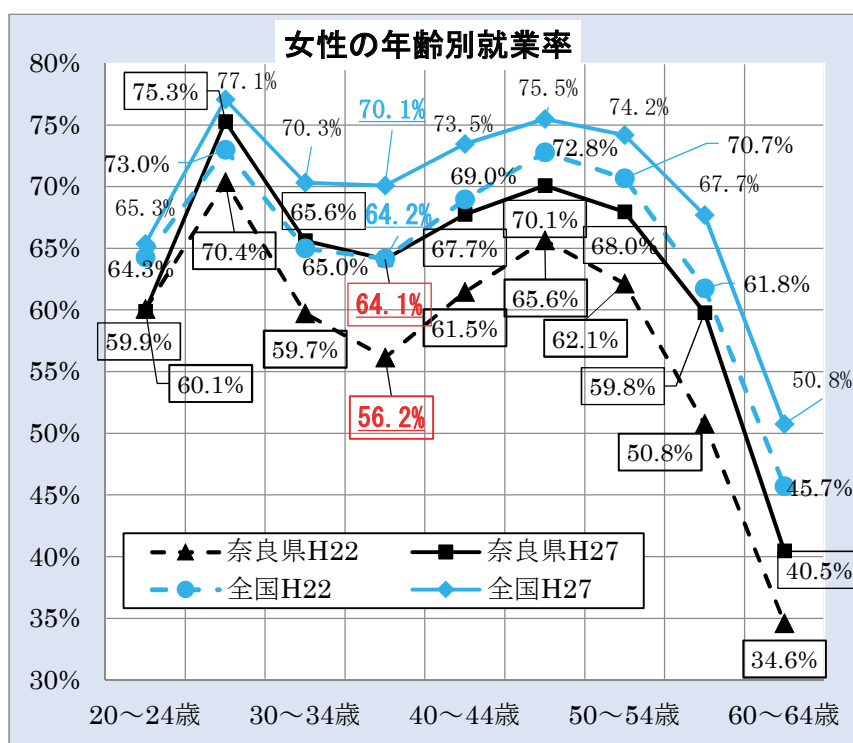
奈良県の20～64歳の女性の就業率は62.8%（H27年・全国69.2%）で全国最下位の状況で、次いで大阪府・兵庫県が低くなっています。

女性の年齢階級別就業率（M字カーブ）は全国ではM字のくぼみの底上げが進み台形に近づいています。奈良県の35～39歳の就業率は全国最下位であるものの、過去5年間で7.9ポイント上昇し、上昇率は全国1位でした。

また、妻が、第1子出産後も仕事を辞めずに働き続けている割合は、39.6%から52.8%に増加しました。

仕事を辞めた理由の1位は「家事・子育てに専念したかったから」（49.0%）となっています。

#### ◇年齢階級別就業率（M字カーブ）と全国順位



出典：総務省「平成27年国勢調査」

都道府県	女性の就業率	順位
全国	69.2%	—
島根県	78.1%	1位
福井県	77.7%	2位
富山県	77.1%	3位
兵庫県	65.6%	45位
大阪府	65.5%	46位
奈良県	62.8%	47位

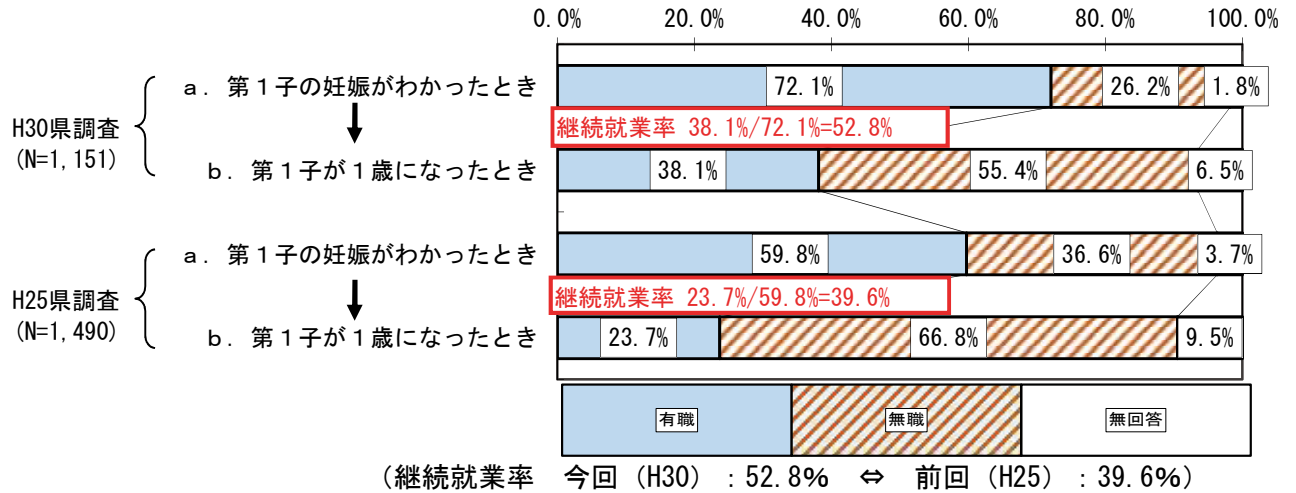
都道府県	就業率の伸び(H27-22)	順位
全国	4.8ポイント	—
奈良県	6.3ポイント	1位
沖縄県	5.8ポイント	2位
岡山県	5.8ポイント	3位
鹿児島県	4.0ポイント	45位
福島県	3.8ポイント	46位
栃木県	3.6ポイント	47位

※20～64歳の女性

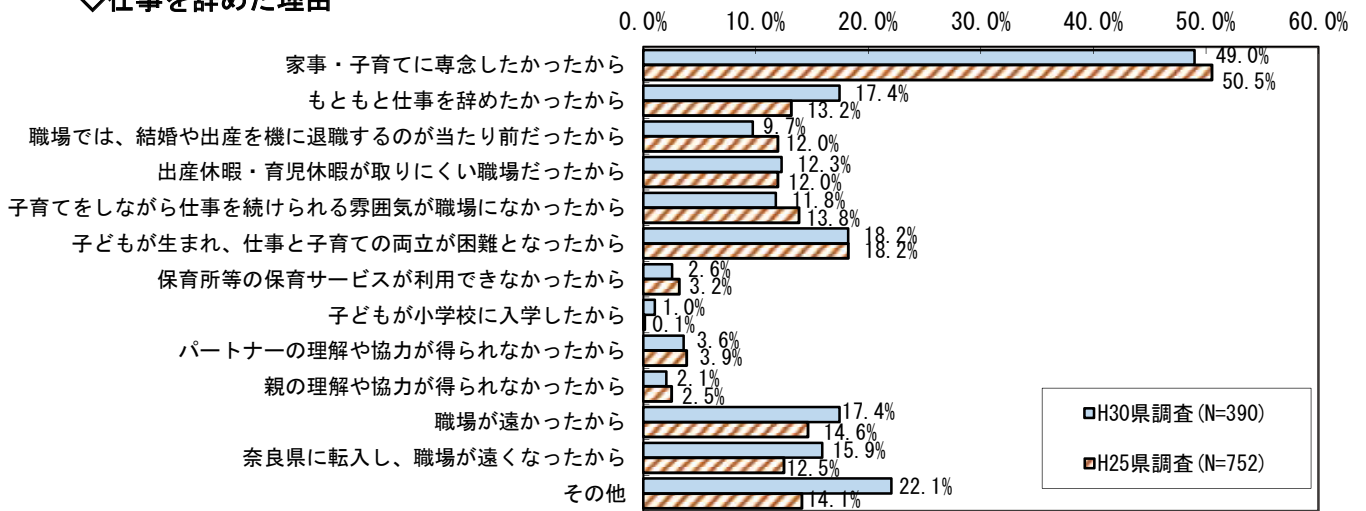
出典：総務省「平成27年国勢調査」



### ◇第1子出産前後の妻の就労状況



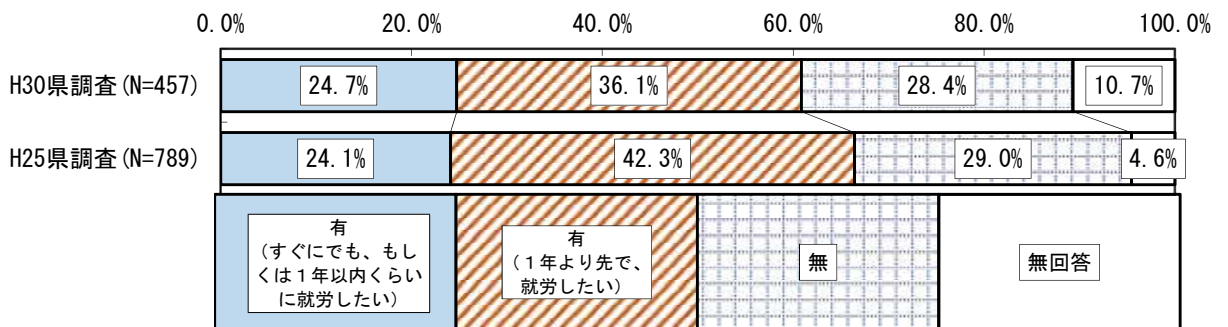
### ◇仕事を辞めた理由



### <未就労の妻の就労希望>

未就労の妻の約6割が働きたいと思っていますが、希望する勤務形態は、短時間勤務のパートやアルバイトが多く、希望する勤務条件は、子どものための休暇が取りやすく、家から近い職場です。

### ◇未就労の妻の就労希望



### ◇未就労の妻の就労の条件

- 1位「短時間勤務ができる仕事があること」(58.2%)
- 1位「子どもの看護・授業参観・急病等の際に休暇を取りやすい職場であること」(58.2%)
- 3位「自分の知識・能力に合う仕事があること」(31.1%)

出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

### <男性の就労状況>

#### ■男性の働き方

奈良県の男性の通勤時間は、片道60分以上の割合が31.3%と高く、帰宅時間は19時46分と遅く、どちらも全国4位です。また長時間労働（週60時間以上勤務）の男性雇用者の割合が13.6%で全国14位です。

### ◇通勤時間・帰宅時間・週60時間以上勤務割合

都道府県	通勤時間 60分以上割合	順位
全国	16.8%	—
神奈川県	36.6%	1位
千葉県	35.5%	2位
埼玉県	35.1%	3位
奈良県	31.3%	4位
島根県	3.6%	46位
鳥取県	3.4%	47位

出典：総務省  
「平成30年住宅・土地統計調査」

都道府県	帰宅時間	順位
全国	19:31	—
兵庫県	19:56	1位
神奈川県	19:55	2位
埼玉県	19:51	3位
茨城県	19:46	4位
千葉県	19:46	4位
大阪府	19:46	4位
奈良県	19:46	4位
島根県	18:34	46位
鹿児島県	18:32	47位

出典：総務省  
「平成28年社会生活基本調査」

都道府県	週60時間以上 勤務割合	順位
全国	13.3%	—
北海道	15.3%	1位
福岡県	14.6%	2位
埼玉県	14.3%	3位
奈良県	13.6%	14位
熊本県	13.6%	14位
神奈川県	13.6%	14位
長崎県	13.6%	14位
秋田県	9.9%	46位
沖縄県	9.0%	47位

出典：総務省  
「平成29年就業構造基本調査」

#### ■男性の育児休業

育児休業取得については、国により制度の改善が進められており、男性の育児休業取得率は上昇傾向にあるものの、女性と比べ依然低く、全国は6.16%で奈良県は5.0%という状況です。父親の育児休暇・休業取得については、夫(54.7%)に比べ、妻(45.8%)の方が、父親が取得した方がいいと思う割合が低い状況です。

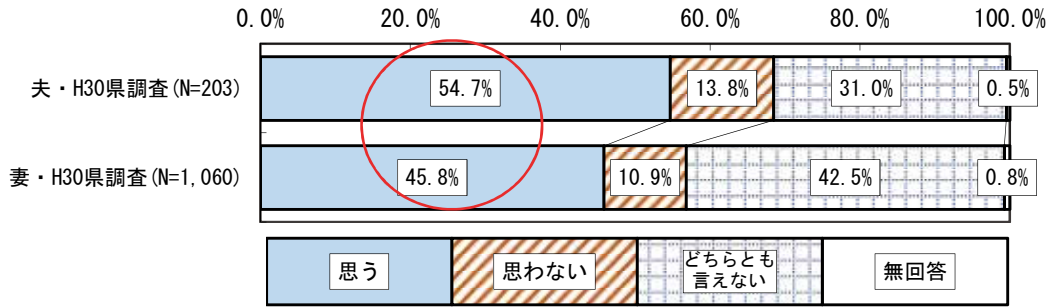
### ◇育児休業取得率・父親の育児休暇・休業取得への考え

#### <育児休業取得率>

	性別	H25	H26	H27	H28	H29	H30
全国	男性	2.03%	2.30%	2.65%	3.16%	5.14%	6.16%
	女性	83.0%	86.6%	81.5%	81.8%	83.2%	82.2%
奈良県	男性	2.9%	0.5%	1.5%	2.8%	3.2%	5.0%
	女性	92.9%	98.9%	95.9%	95.4%	93.0%	92.4%

出典：厚生労働省「雇用均等基本調査」、奈良県「職場環境調査」

<父親の育児休暇・休業取得への考え（取った方がいいと思うか）>

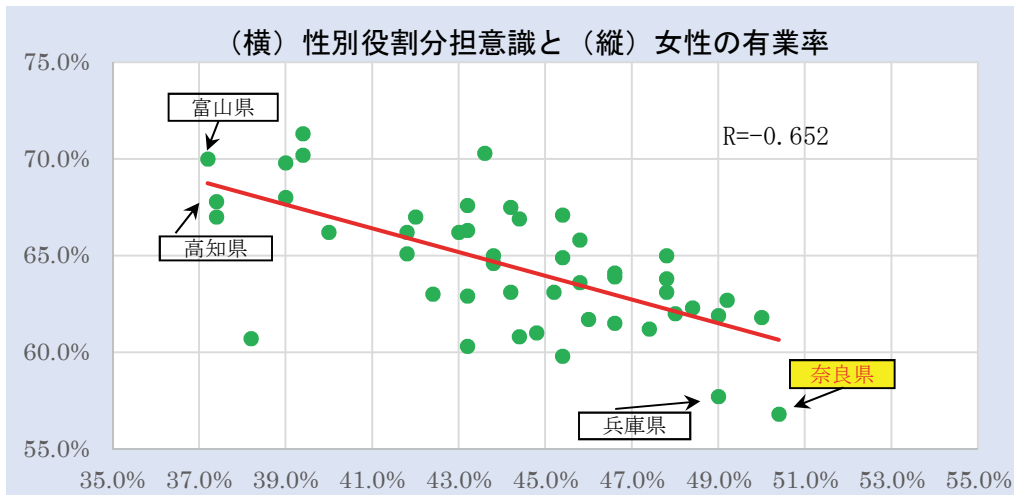


出典：平成 30 年奈良県結婚・子育て実態調査

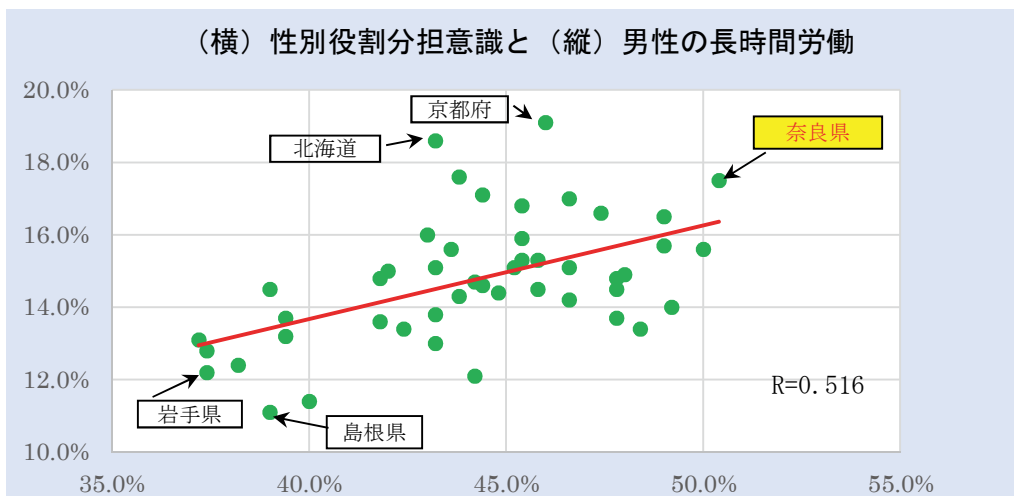
<固定的性別役割分担意識と働き方>

「夫が外で働き、妻が家を守る」という「固定的性別役割分担意識」を持つ割合は、奈良県が50.4%（H27年）で全国1位ですが、この固定的性別役割分担意識と女性の有業率・男性の長期間労働には相関関係があり、本県のように、この意識を持つ割合が高い都道府県ほど有業率が低く、また男性の長時間労働の割合は高い傾向にあります。

◇固定的性別役割分担意識と女性の有業率の相関関係



◇固定的性別役割分担意識と男性の長時間労働の相関関係



出典：内閣府「平成 27 年男女共同参画白書」

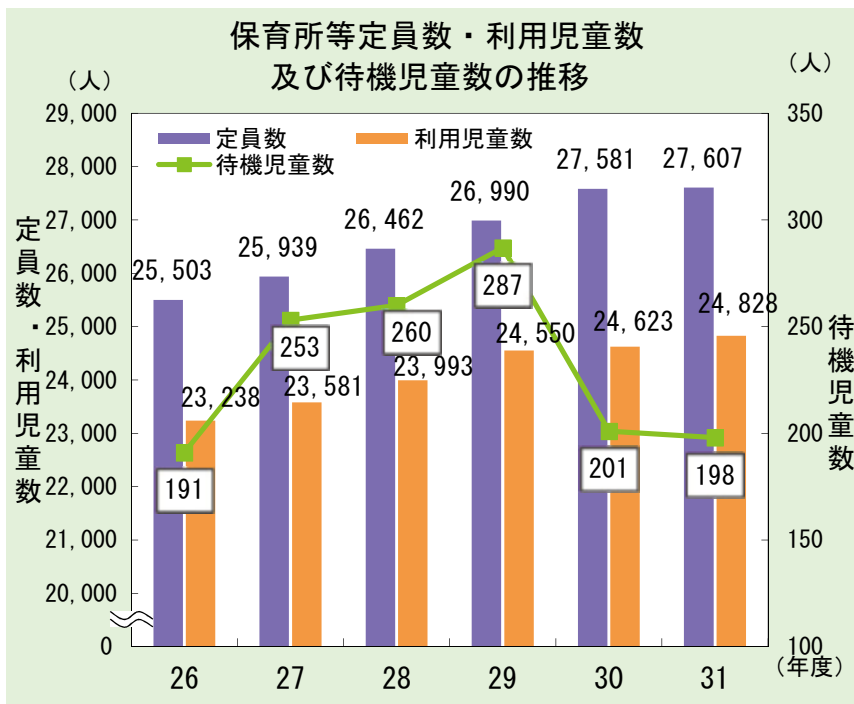
#### ④保育所等・放課後児童クラブの状況

##### <保育等の状況>

保育所等（※）利用児童数は増加しており、待機児童数は毎年約200～300人前後で推移しており、特に市部を中心に発生しています。

また、放課後児童クラブ登録児童数も増加傾向で、待機児童数は毎年約100人前後で推移しています。どちらも、令和元年10月から始まった幼児教育・保育の無償化による影響も含め、今後も利用ニーズが増加することが予想されます。

##### ◇保育所等定員数・利用児童数及び待機児童数の推移

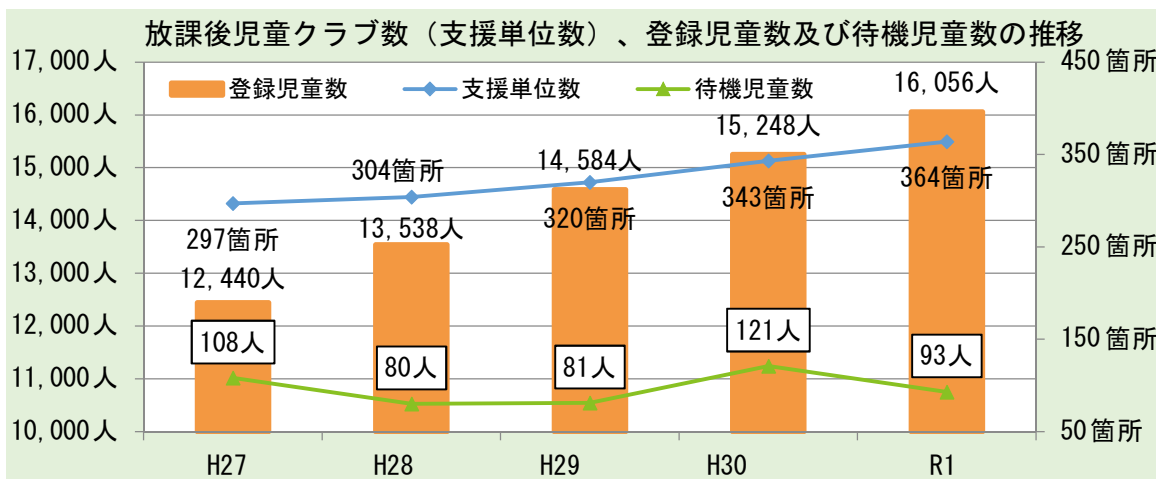


市町村名	待機児童数(人)	
	H30	R1
生駒市	63	77
奈良市	76	69
大和郡山市	12	18
天理市	25	17
安堵町	0	6
葛城市	6	4
橿原市	13	3
田原本町	6	2
平群町	0	2
計	201	198

出典：奈良県子育て支援課調べ

※「保育所等」は、保育所（保育所型認定こども園の保育所機能部分含む）、幼保連携型認定こども園（保育所機能部分のみ）、幼稚園型認定こども園（保育所機能部分のみ）、地域型保育事業

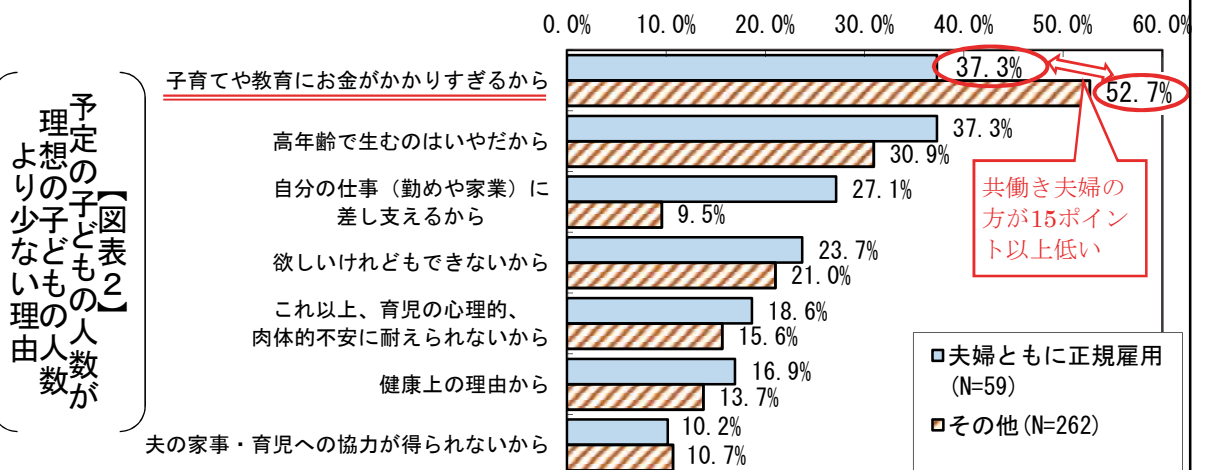
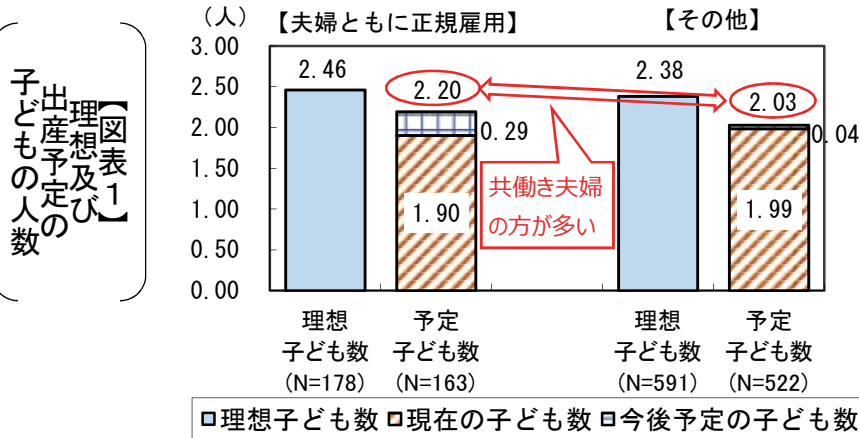
##### ◇放課後児童クラブ数、登録児童数及び待機児童数の推移



出典：奈良県子育て支援課調べ

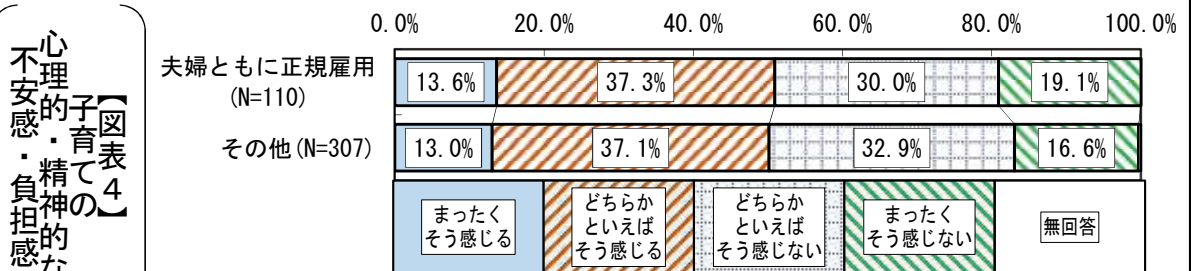
(参考) 正規雇用共働き家庭とそれ以外の家庭の比較

○家庭を夫婦の働き方で比較すると、①共働きの方が子どもを持つことに比較的ポジティブであり(図表1・2)、②共働きの夫は妻により気配りをしています(図表3)。しかし、③妻の子育ての不安感・負担感は、共働きか否かに関わらず約半数が感じています(図表4)。



【図表3】妻の感じる夫の方への気配り

	夫婦ともに正規雇用	その他
夫は、家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている	71.8%	56.0%
夫は、私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる	52.7%	40.4%
夫は、私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる	52.7%	37.8%



出典：すべて平成30年奈良県結婚・子育て実態調査



## ⑤子育て家庭に関する社会の課題

「子育て家庭」の現状について、奈良県だけでなく社会の課題となっていることを取りまとめました。

### 【子どもの発達・夫婦関係・ひとり親】

わからないことからの自信のなさに加え、育てにくさを抱えながら一人で子育てすることへの不安感・負担感を感じる母親。ひとり親女性はさらに経済的な不安を抱えている

- <事例> ○子ども
- ・育てにくいと感じる
  - ・発達状態に不安
- 親 [経験不足]
- ・身近に妊娠・出産の例が少ない
  - ・高齢出産
  - ・子育てすべてがわからない(初めて抱く赤ちゃんが自分の子ども)
  - ・家事にも不慣れ
  - ・感情的に怒ってしまう
- [ワンオペ育児]
- ・夫婦でいるのに一人で子育て(悲壮感)
  - ・夫は仕事が忙しい
  - ・夫はもっと子育て・家事がわからない
- ひとり親
- ・収入が少なく生活や教育費に不安
  - ・雇用形態が不安定
  - ・子どもと過ごす時間少ない
  - ・周りに相談できる人がいない

### 【専業主婦・働く母親】

働いていてもいなくても、何かしらの罪悪感や負担感があるのは母親

- <事例> ○専業主婦
- ・社会からの孤立感
  - ・子どもだけの時間が長すぎてしんどい
  - ・自立ができていないことへの焦り
  - ・将来の教育費への不安
  - ・夫の失業・転職、離婚 = 無収入への不安
  - ・ブランクや社会復帰への漠然とした不安
  - ・子どもを預けてまで働くことへの不安
- 働く母親
- ・夫の無理解「働いても家事は今までどおりで」
  - ・時間に追われる育児
  - ・十分な育児ができていない不安
  - ・子どもを預けて働くことに罪悪感
  - ・育休や時短勤務で職場への罪悪感
  - ・小1の壁(学校に上がっても預け先が必要)

### 【地域の現状・プレッシャー】

地域とのつながりが希薄な一方、子育ての不安感・負担感をあおる、悪気のない世間からの価値観や固定的性別役割分担意識の押し付け等がプレッシャーに

- <事例> ○地域の現状
- ・子どもの声は「騒音」
  - ・子どもの泣き声は「虐待」の疑い
  - ・声をかけると「不審者」扱い
  - ・子どもの名前は「個人情報」であり、気軽に確認できない
  - ・家族の無理解「働いても家事は今までどおりで」
- 社会からのプレッシャー
- ・母乳が「一番」
  - ・三歳児神話
  - ・親世代からの「家事・子育てはきちんと」
  - ・父親の育休はキャリアに響く
  - ・最近のお父さんは「イクメン」が当然



## (2) 子どもを取り巻く現状

### ①子どもの健康・体力・学習意欲の状況

奈良県の子どもの1週間の総運動時間をみると、60分未満の割合は、小学5年生男子で9.6%（全国平均7.6%）、小学5年生女子で16.6%（全国平均13.0%）、中学2年生男子で9.0%（全国平均7.1%）、中学2年生女子で23.2%（全国平均19.4%）と、全国平均を上回っている状況です。（令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査より）

児童生徒の学習意欲については、国語又は算数・数学の学習意欲に関する項目の回答状況（「好き」「大切」「分かる」「将来役に立つ」の相加平均）を見ると、小学6年生で84.3%（全国平均84.0%）と全国平均を上回っており、中学3年生で74.3%（全国平均76.3%）と全国平均を下回っている状況です。（平成31年度全国学力・学習状況調査より）

### ②子どもに係る地域の状況

こども食堂は、ここ数年で増加し、県内52箇所（令和元年12月末現在）で設置されています。

また、県民アンケート調査では、子育てのための遊び場等の満足度や子どものための事業の満足度については、「満たされていない」と感じる方が多い状況です。

#### ◇こども食堂設置数（市町村毎の設置場所）

市町村名	団体数	市町村名	団体数
奈良市	18	平群町	1
大和高田市	3	斑鳩町	1
大和郡山市	1	安堵町	1
天理市	4	三宅町	1
橿原市	3	田原本町	1
桜井市	5	上牧町	2
御所市	2	王寺町	2
生駒市	2	河合町	1
香芝市	1	東吉野村	1
宇陀市	1		
葛城市	1	合計	52

※こども食堂ネットワーク加入団体数 R元年12月末現在  
出典：奈良県こども家庭課調べ

#### ◇子ども関連事業への満足度

○子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実：「満たされていない」…70.3%

○自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業：

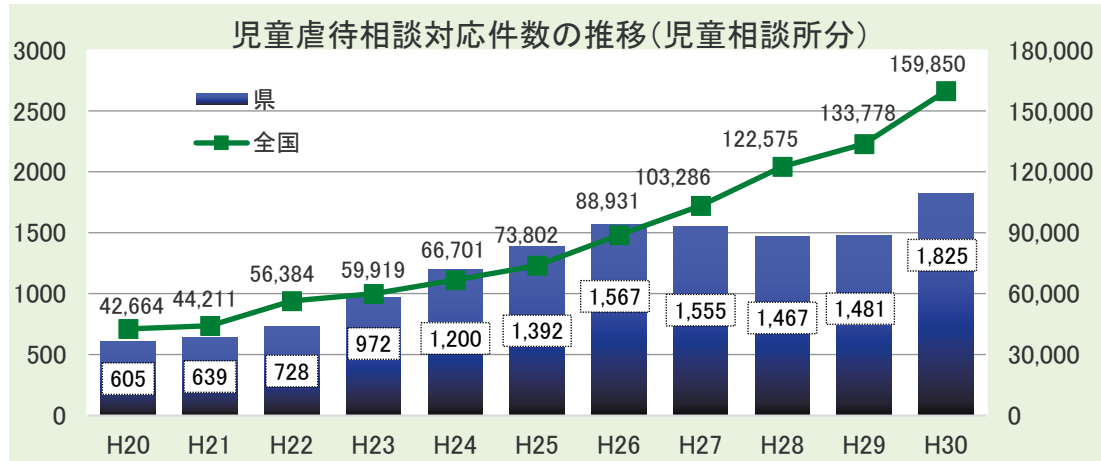
「満たされていない」…64.1%

※「どちらかといえば満たされていない」「ほとんど満たされていない」の合計  
出典：令和元年度県民アンケート調査

### ③児童虐待の状況

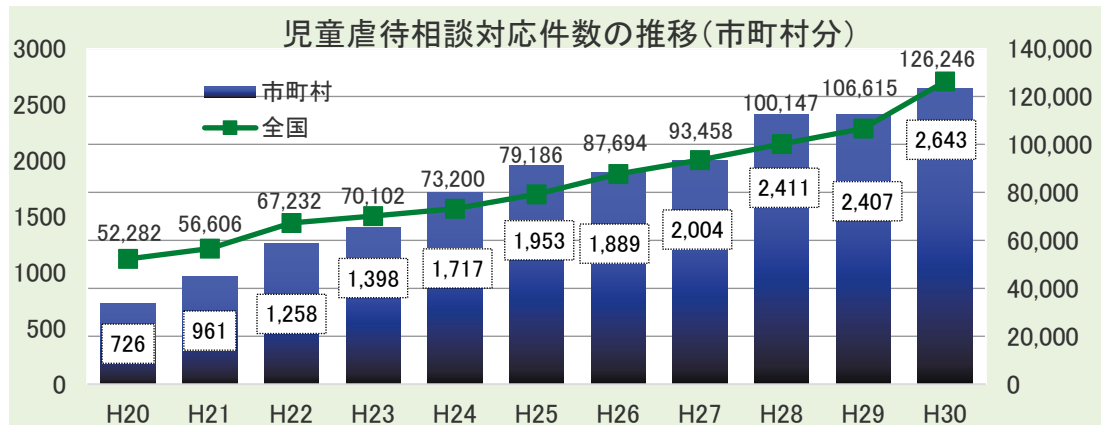
奈良県の子ども家庭相談センター（児童相談所）及び市町村における児童虐待相談対応件数は、全国と同様に年々増加しており、県、市町村とも平成30年度に過去最多件数となりました。特に市町村の対応件数が増加しています。県での相談対応件数の内訳は、心理的虐待が928件と一番多く、また、対応ケースの主な虐待者の約半数が実母という状況です。

#### ◇児童虐待相談対応件数の推移【県分（児童相談所）】



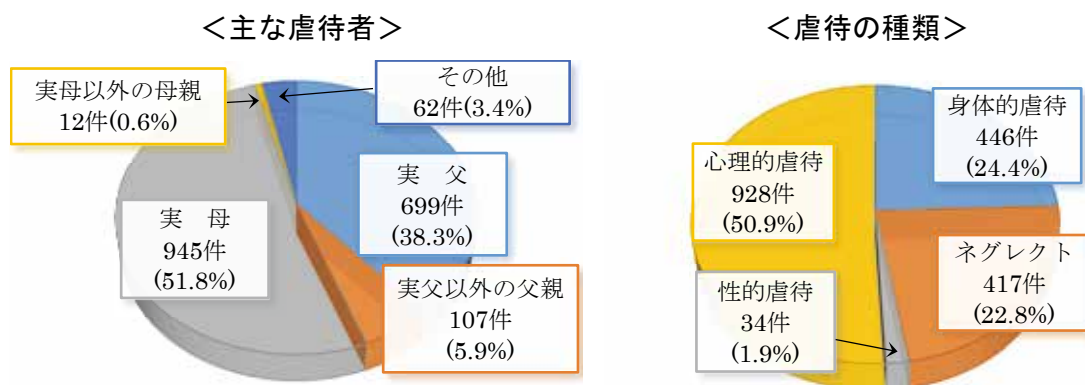
出典：奈良県子ども家庭課調べ

#### ◇児童虐待対応件数の推移【市町村分】



出典：奈良県子ども家庭課調べ

#### ◇虐待の種類と主な虐待者【県分（児童相談所）】



出典：奈良県子ども家庭課調べ（平成30年度）

#### ④子どもに関する社会の課題

「子ども」の現状について、奈良県だけでなく社会の課題となっていることを取りまとめました。

##### 【意欲・意識】

乳幼児期からの育ちのなかで、自尊感情や規範意識が身につかないと、学童期に様々な影響

- <事例> ・ルールを守れない ・学習意欲が低い ・他人をいじめる ・不登校  
・空気を読まない人をはじき出すコミュニケーション

##### 【健康・体力】

生活習慣や生活環境の変化・多様化が、子どもの体力や健康に影響

- <事例> ・就寝時間が遅い ・ゲームなどの室内遊びが増加し、外遊びが減少  
・外遊びの仕方が分からない ・朝食の欠食 ・孤食

##### 【発達・多様性】

貧困やネグレクトなど困難な状況に置かれている子ども、障害のある子ども、外国人の子どもなど、置かれている状況に応じ様々な困難を抱えている

- <事例> ○貧困やネグレクト ・自分を好きになれない ・親が世話をしない  
・親と関わる時間が少ない ・学習塾に通えない  
○障害のある子ども ・住み慣れた地域で暮らしたい  
・発達障害の相談が増加している  
・障害特性に対応した療育環境が整っていない  
○外国人の子ども ・日本語が分からない ・様々な不安を抱える学校生活  
・生活習慣・文化の違いが理解されない

##### 【地域環境】

地域のつながりの希薄化、意識や社会環境の変化により、子どもが安心して、のびのび遊び、過ごすことができない

- <事例> ・子どもの声は「騒音」と言われる ・地域に安心して遊べる場が少ない  
・全国で子どもが被害に遭う事故や犯罪がクローズアップされている  
・子どもを取り巻く有害なものの多様化

### (3) 若者の現状

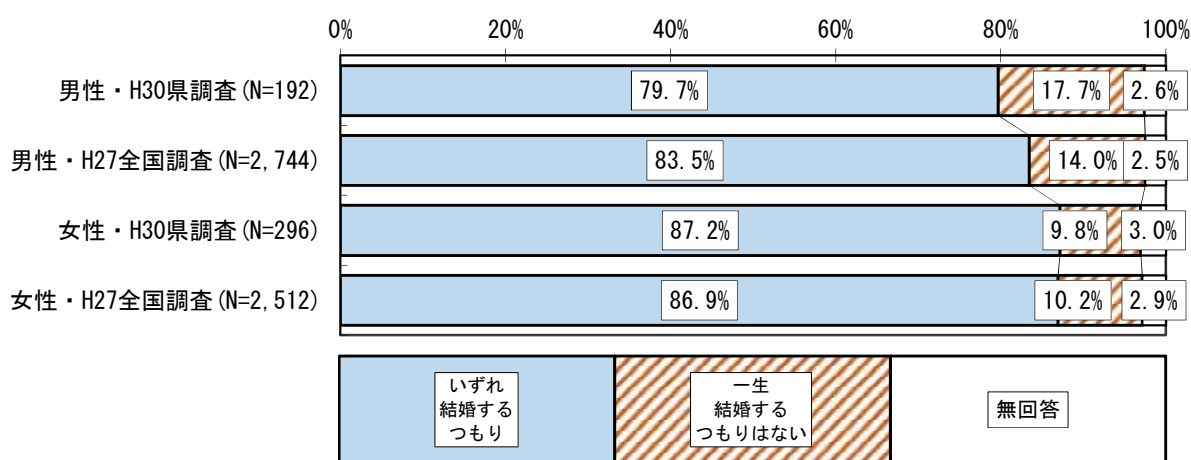
#### ①若者の結婚に関する意識

結婚経験のない20～39歳の結婚意欲をみると、「いずれ結婚するつもり」と回答した方が、男性は79.7%、女性では87.2%と男女ともに結婚意欲は高く、その割合は全国と比べてもほぼ同程度です。

希望結婚年齢は、平成25年の調査より男性は1.4歳、女性は0.8歳低下しています。

独身でいる理由の1位は男女とも全国同様「適当な相手にまだ巡り合わないから」ですが、女性が、結婚相手に「経済力」を求める割合は全国より10ポイント以上高くなっており、「家事・育児に対する能力や姿勢」を求める割合は全国より約15ポイント低くなっています。

#### ◇いずれ結婚しようとする未婚者の割合



※結婚経験のない20～39歳

出典：出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）及び平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

#### ◇希望結婚年齢

- ・男性 [25～29歳] (H25) 31.9歳 → (H30) 30.5歳 1.4歳低下
- ・女性 [25～29歳] (H25) 30.6歳 → (H30) 29.8歳 0.8歳低下

出典：平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

#### ◇独身者（18～34歳）が結婚相手を決める際に「重視する」こと

- ・「相手の経済力」
  - 【男性】（奈良県 9.0%・全国平均 4.7% その差+ 4.3%）
  - 【女性】（奈良県50.4%・全国平均39.8% その差+10.6%）
- ・「相手の性格」
  - 【男性】（奈良県77.8%・全国平均76.6% その差+ 1.2%）
  - 【女性】（奈良県92.1%・全国平均88.3% その差+ 3.8%）
- ・「家事・育児に対する能力や姿勢」
  - 【男性】（奈良県47.9%・全国平均46.2% その差+ 1.7%）
  - 【女性】（奈良県42.9%・全国平均57.7% その差▲14.8%）

出典：出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）及び平成30年奈良県結婚・子育て実態調査

## ②若者の就労状況

奈良県男性の非正規雇用割合は全国に比べ高く、全年代では23.4%（全国9位）ですが、若年者層※（15～34歳）では28.4%で全国4位です。奈良県の女性は、全年代では60.8%（全国2位）で、若年者層（15～34歳）では47.9%で全国3位です。

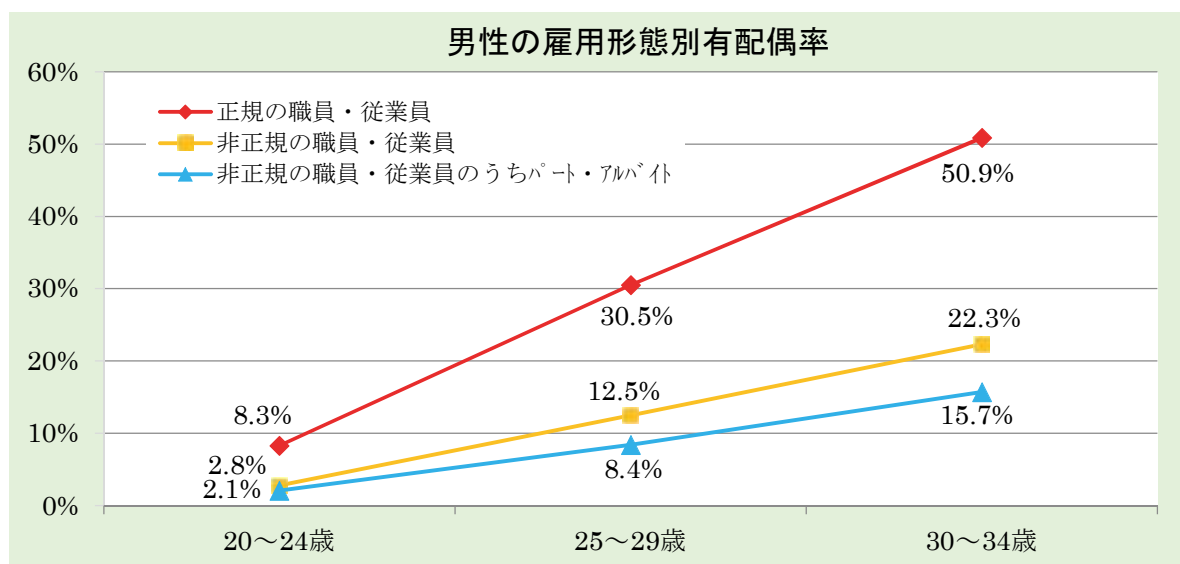
### ◇非正規雇用の割合

＜若年者(15～34歳) 男性＞			＜若年者(15～34歳) 女性＞		
都道府県	非正規雇用率	順位	都道府県	非正規雇用率	順位
全国	24.0%	—	全国	43.0%	—
京都府	34.0%	1位	沖縄県	56.7%	1位
沖縄県	33.0%	2位	京都府	49.9%	2位
福岡県	29.1%	3位	奈良県	47.9%	3位
大阪府	28.4%	4位			
奈良県	28.4%	4位			
福島県	16.3%	45位	山形県	36.2%	45位
香川県	16.3%	45位	福井県	36.1%	46位
富山県	13.2%	47位	富山県	32.6%	47位

※「通学が主な者」で、「仕事は従な者」を含む  
出典：総務省「平成29年就業構造基本調査」

### （参考）男性の雇用形態別有配偶率

○男性の雇用形態別有配偶率をみると、30～34歳の年齢層において、正規の職員であれば半数以上が結婚していますが、非正規の職員の場合、結婚している人は4人に1人以下となっています。



出典：内閣府「令和元年版 少子化社会対策白書」、総務省「平成29年就業構造基本調査」

### ③困難を抱える若者の状況

県内のひきこもり者は1万人以上と推計され、うち若者（15～39歳）が約5千人と推計されています。

ひきこもり相談窓口で対応した当事者の年齢層は10代の相談は18%、20代～30代で49%を占め、40代～50代以上の相談は25%となっており、高齢化の傾向となっています。

相談窓口に最初に相談されるのは、当事者の母からの相談が50%を占めており、次いで当事者本人からが15%となっています。

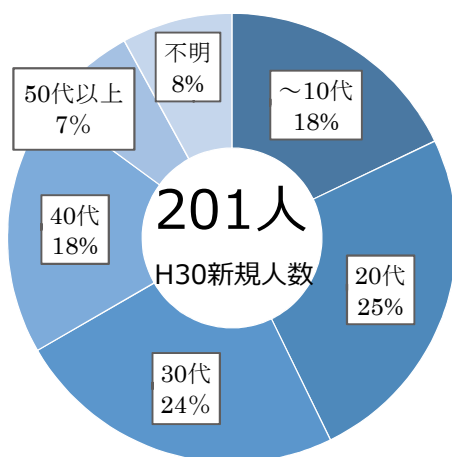
ひきこもり年数は3年未満が37%、3～10年が20%、10年以上は22%となっています。

当事者の性別は、男性が69%、女性が25%と、特に男性が多くなっています。

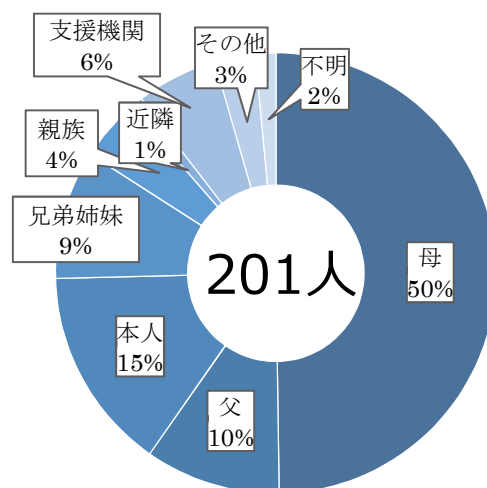
ひきこもりの実態は見えにくく、相談に至っていないケースが多いことが推測されます。

#### ◇ひきこもり当事者の状況[平成30年度]

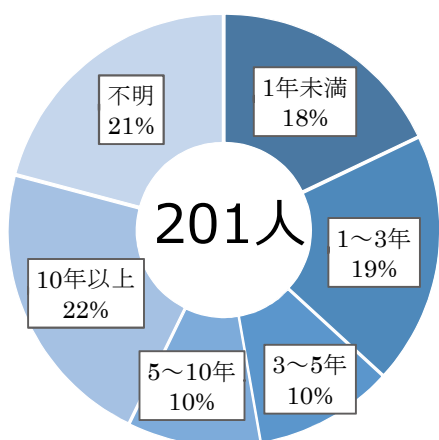
<相談のあった当事者の年齢構成>



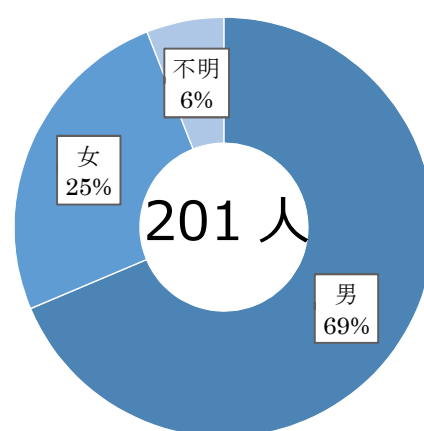
<最初の相談者とひきこもり当事者との関係>



<ひきこもり年数>



<ひきこもり当事者の性別>



出典：奈良県青少年・社会活動推進課調べ



#### ④若者の結婚・自立に関する社会の課題

「若者の結婚・自立」の現状について、奈良県だけでなく社会の課題となっていることを取りまとめました。

##### 【独身男女（結婚）】

- ・男性は、結婚しても、今までどおりの生活を続けられることを求めがち
- ・女性は結婚か仕事かの二者択一を求められることから結婚しない選択も
- ・結婚するなら、何より相手に経済的なことを望むことから、男女の要求は相容れない
- ・一方、男女とも結婚の障害は結婚式や住居に係る「お金」

- <事例> ○男性
- ・結婚しても趣味や遊びは続けたい
  - ・家事や育児はできるだけ「手伝う」・結婚相手に一番求めるのは「性格」
  - ・結婚することの障壁は「結婚するための住居」
- 女性
- ・結婚か仕事かの二者択一（結婚しない選択の増加）
  - ・結婚相手に一番求めるのは「経済力」
  - ・結婚相手には家事育児の能力もそれなりに求めたい
  - ・結婚することの障壁は「結婚式の費用」（結婚のイベント化）

##### 【自立できない若者（ひきこもり者）】

- ・一度挫折すると、元に戻れない社会構造
- ・長期化すれば社会復帰しにくくなる
- ・精神疾患を患っている場合もあり、ひきこもり者は孤立傾向
- ・本人はなんとかかしたいと思うが、きっかけがない

- <事例> ○ひきこもり者
- ・子どものころからのつまずき（進学の実敗や中退での挫折体験、いじめや不登校）
  - ・大人になってからのつまずき（職場の不適合・病的要因等による離職、就職できないことへの不安）
  - ・親との関係性（親の決めた人生、過度な期待、過保護、過干渉、無関心）
  - ・親への経済的依存
- 家庭環境
- ・ひきこもっている子どもへの接し方がわからない、子どものことが理解できないが、子どもの社会復帰を焦る
  - ・恥ずかしくて相談できない
  - ・ひきこもりになったのは自分(親)の責任と思う